

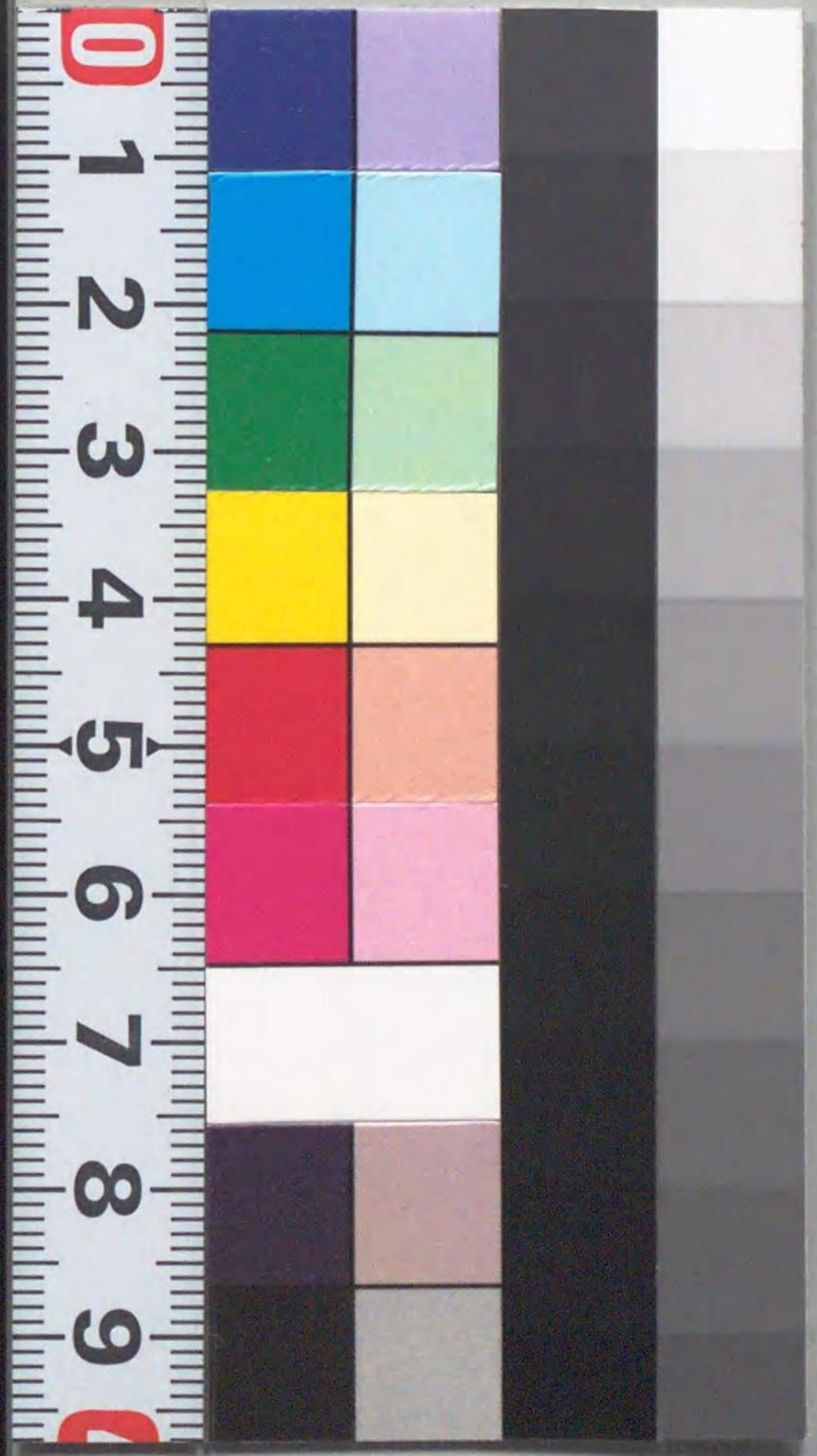
石立  
替古

置碁自在

服部因淑著述  
五目置之部

六

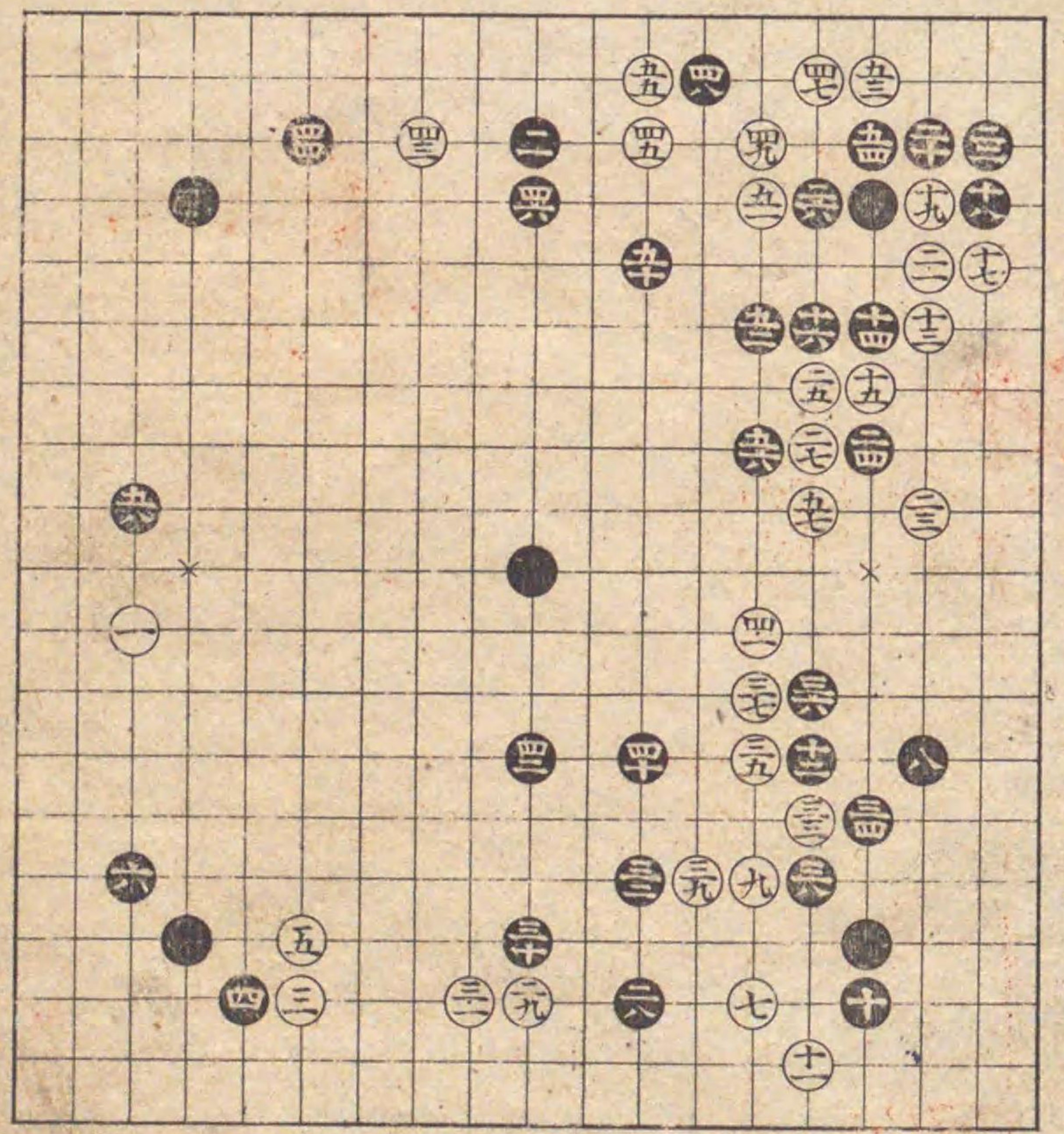
795.  
H3380  

795  
H3380  
(A)

置碁自在

此石立黒乃手談働あり面白き手筋之心得見るべし二四と打先手を取打とし黒四十吉四十二よし四十八吉五十吉五十六吉白二十九の手小て黒の三二へ打ハ三十の手へ桂馬小打よし



○置碁自在

五目置之部

○下巻始廿六

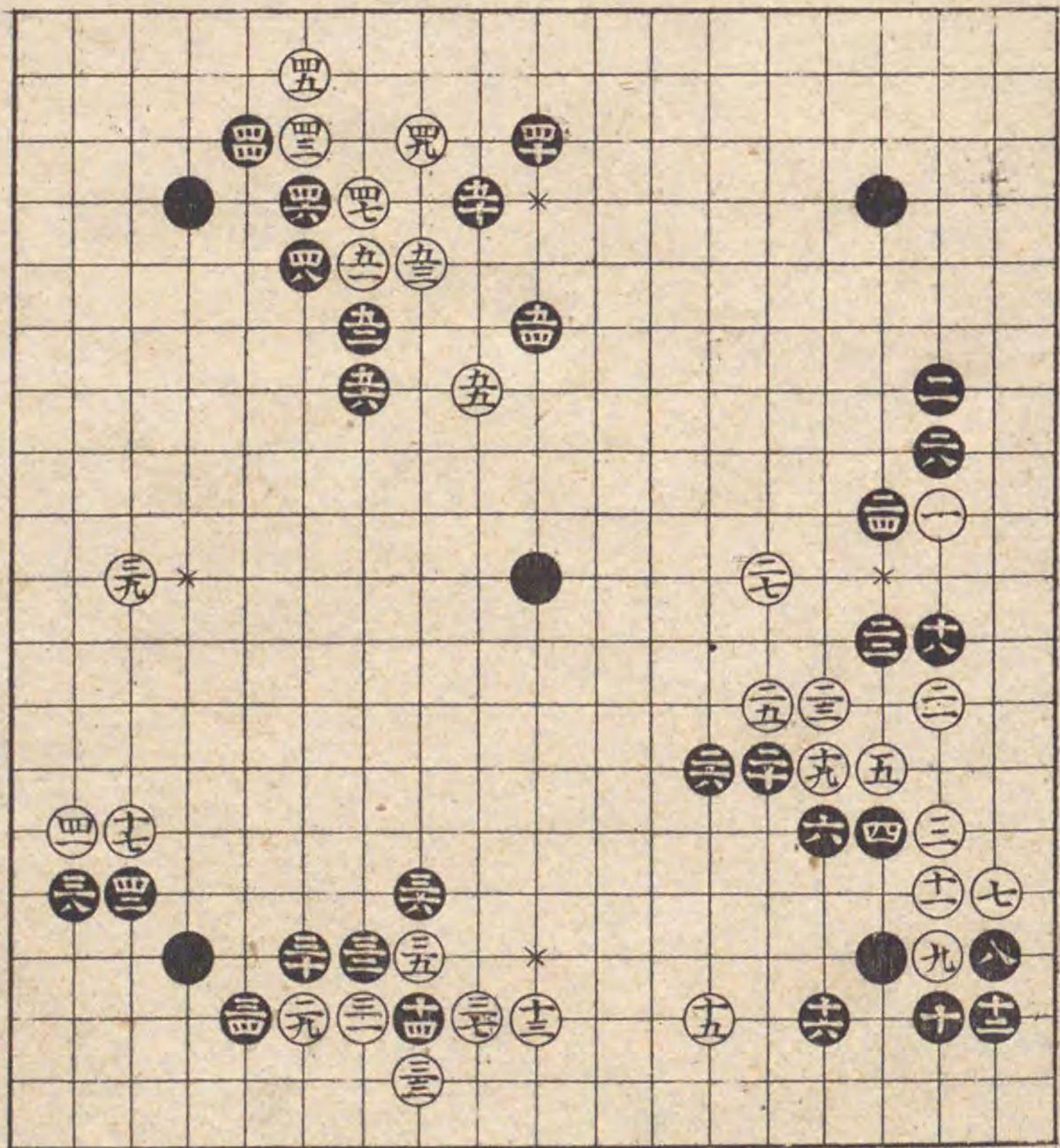
三乃置碁

寄贈  
瀬越囲碁文庫  
殿

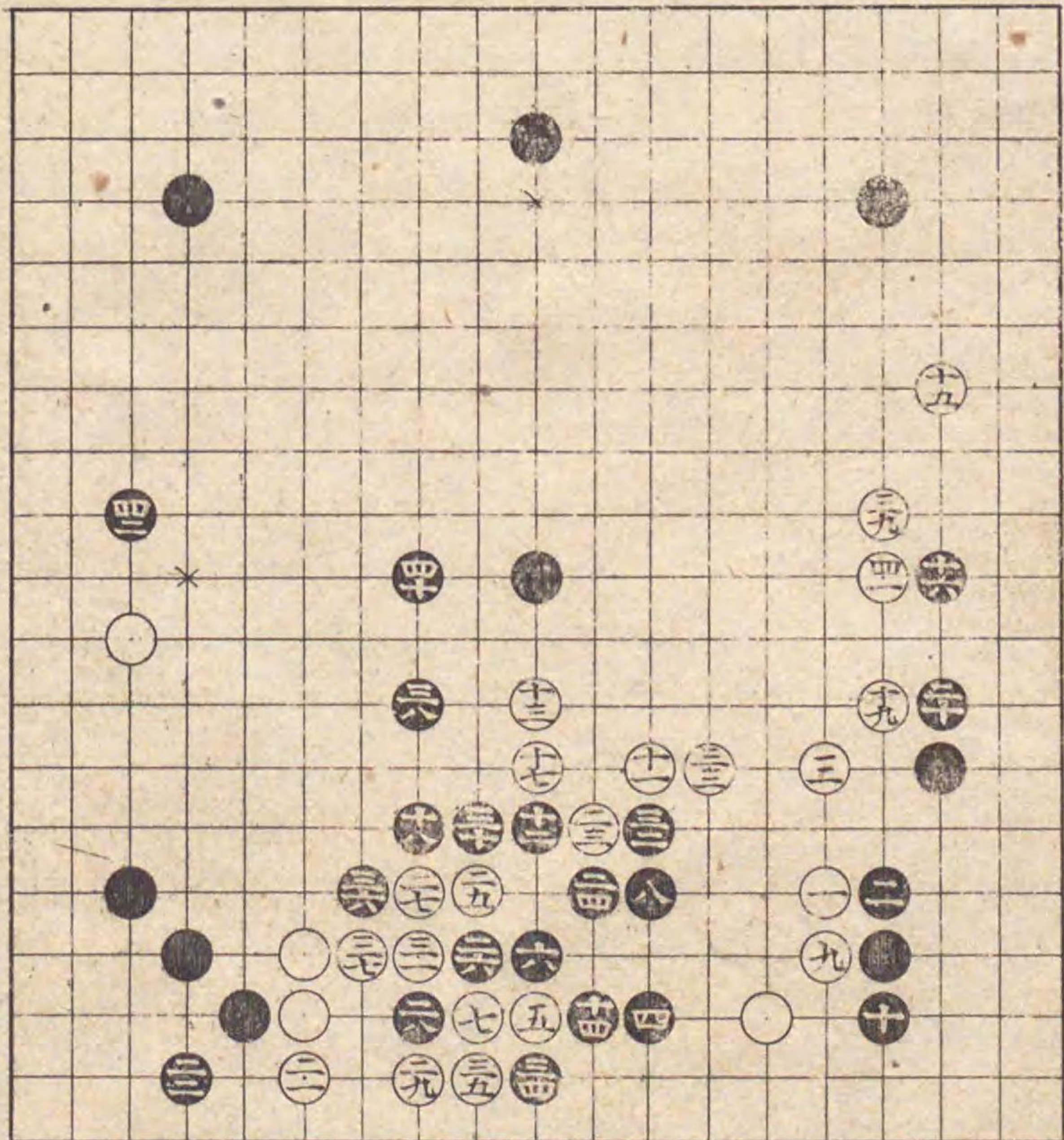


617160

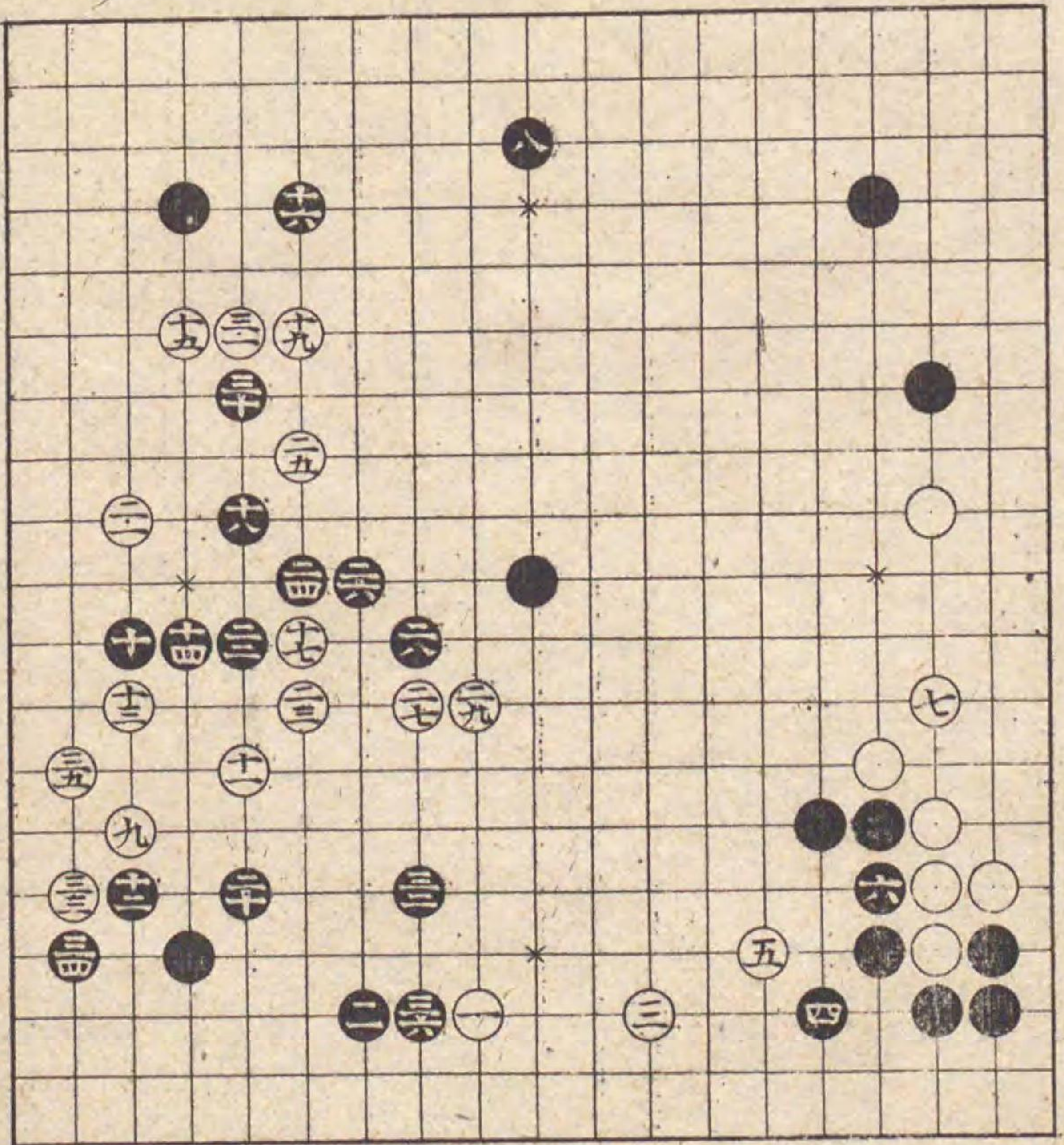
此石立紛れおし白打  
込をうたれてハ悪し  
次小記也



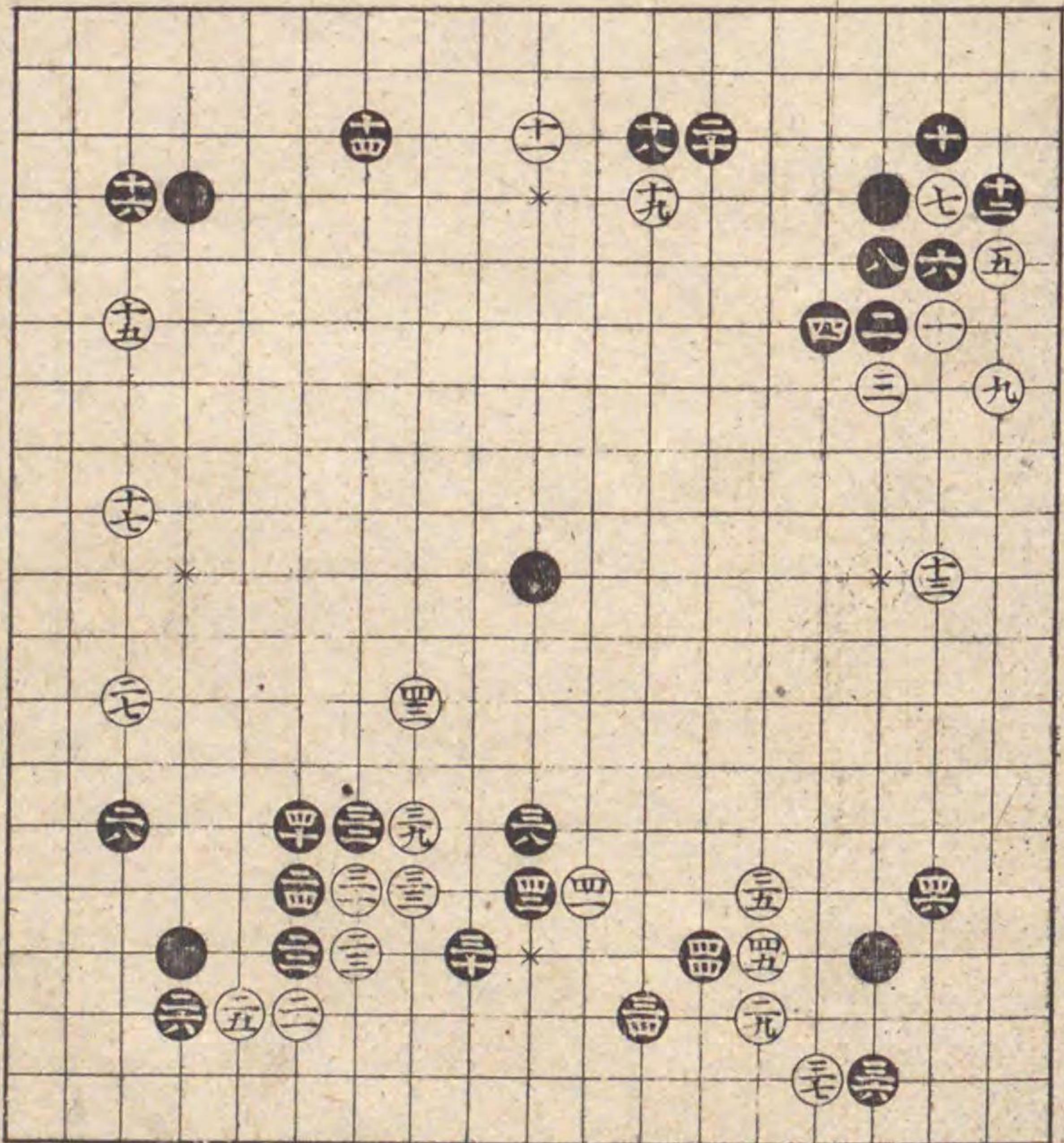
前番白九の手より替  
る  
此石立黒乃手筋至極  
とこ  
十八吉



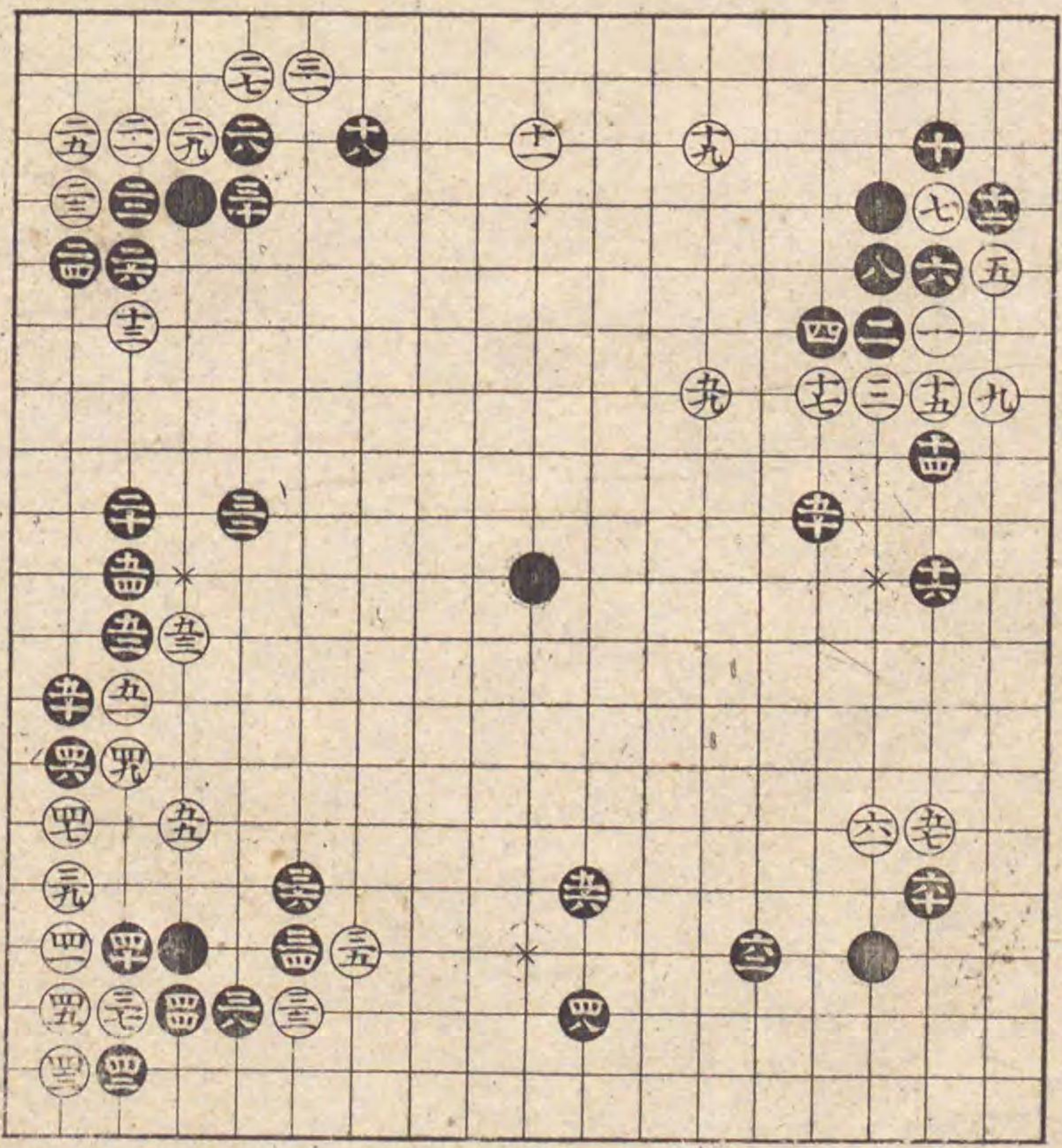
前番白十三の手より替る  
 如此替りても黒此手筋心得打へし大位不  
 して堅く打かり二八  
 三六の手あほりあり  
 て吉少もぬるまじ  
 まぢへ白ひまなし考  
 へ見るへし



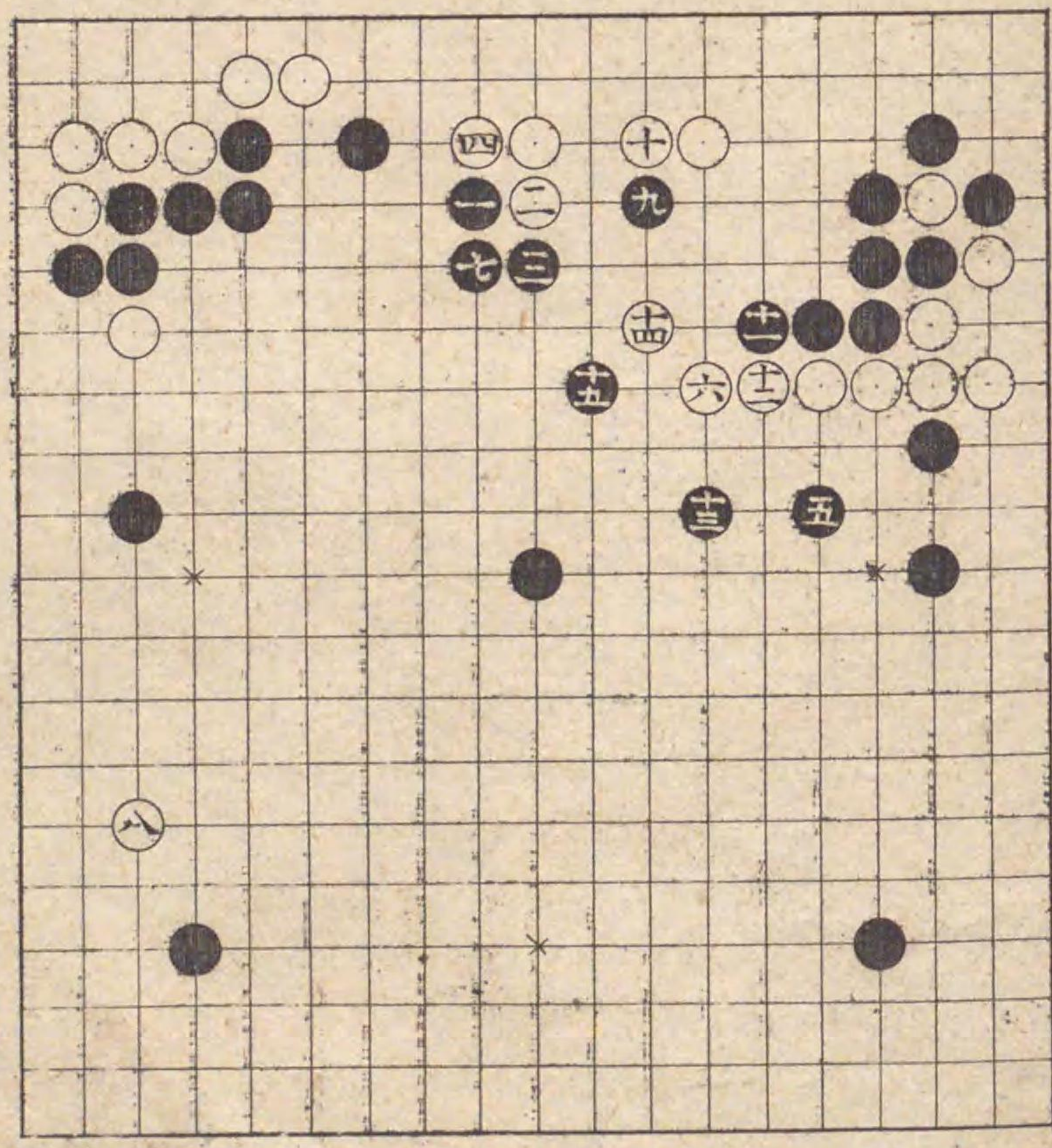
此石立とし四四との  
 ぞき四六と打至極堅  
 紛なし四四乃手常ハ  
 悪し此所不て四六と  
 打手談別てよし



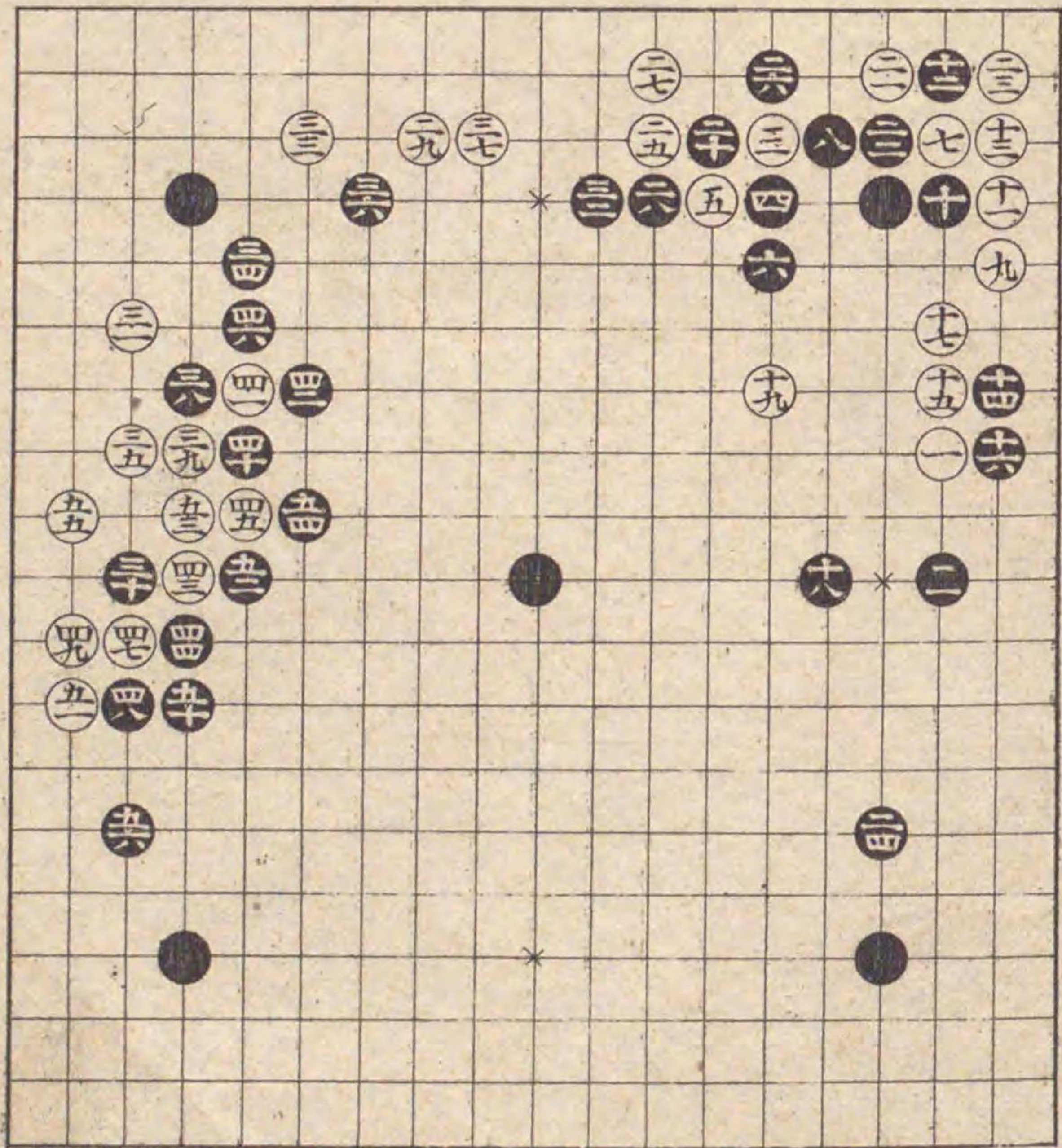
此石立紛れ方し三十  
と打と常ハ打ぬ事之  
黒位を打ちへ此所不  
てハよし次小なるす



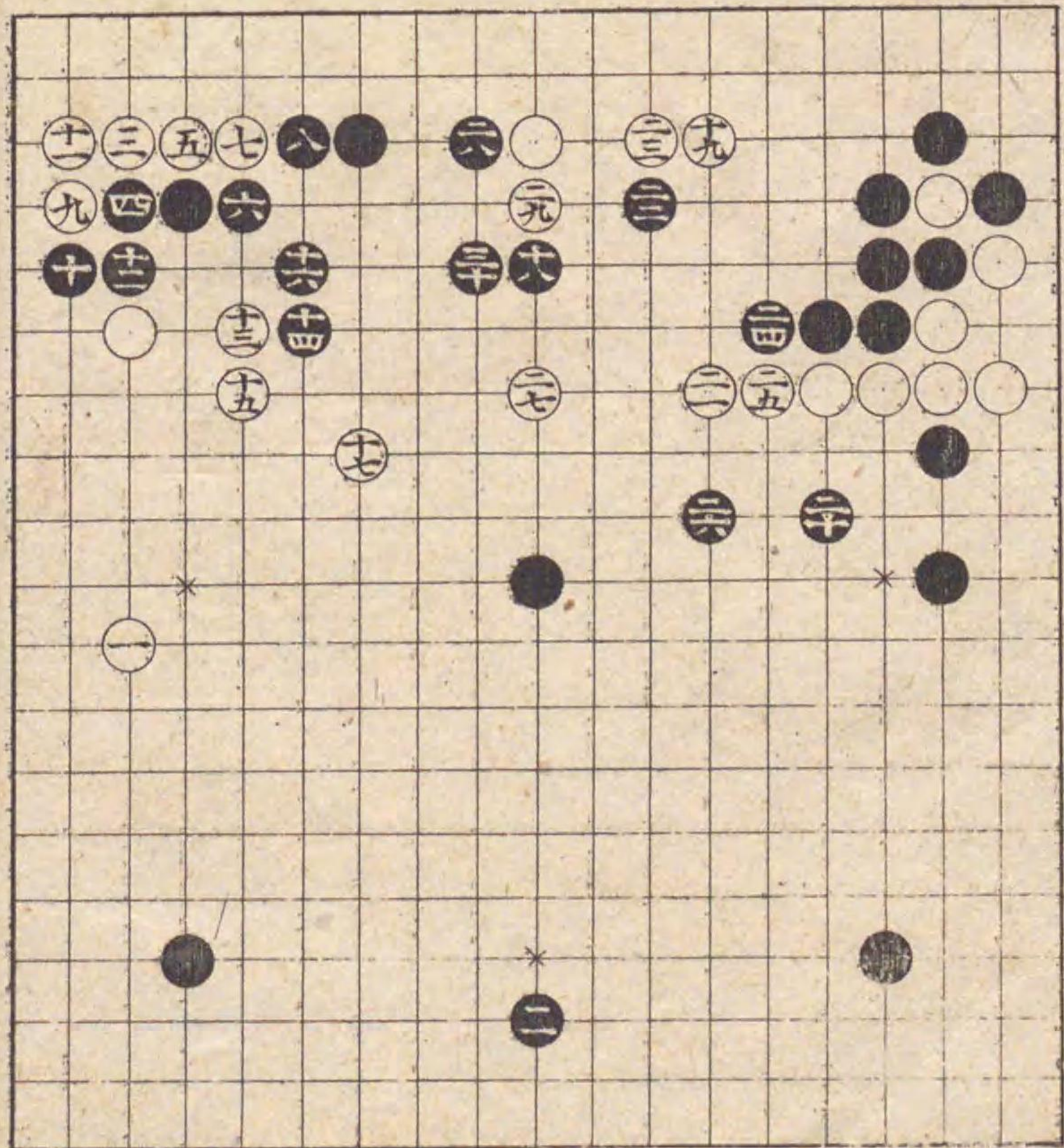
前番黒三二の手より  
替る  
如是替りてハ黒大不  
吉一と如斯打位を打  
ハ前の手談より増る  
こ  
十五吉



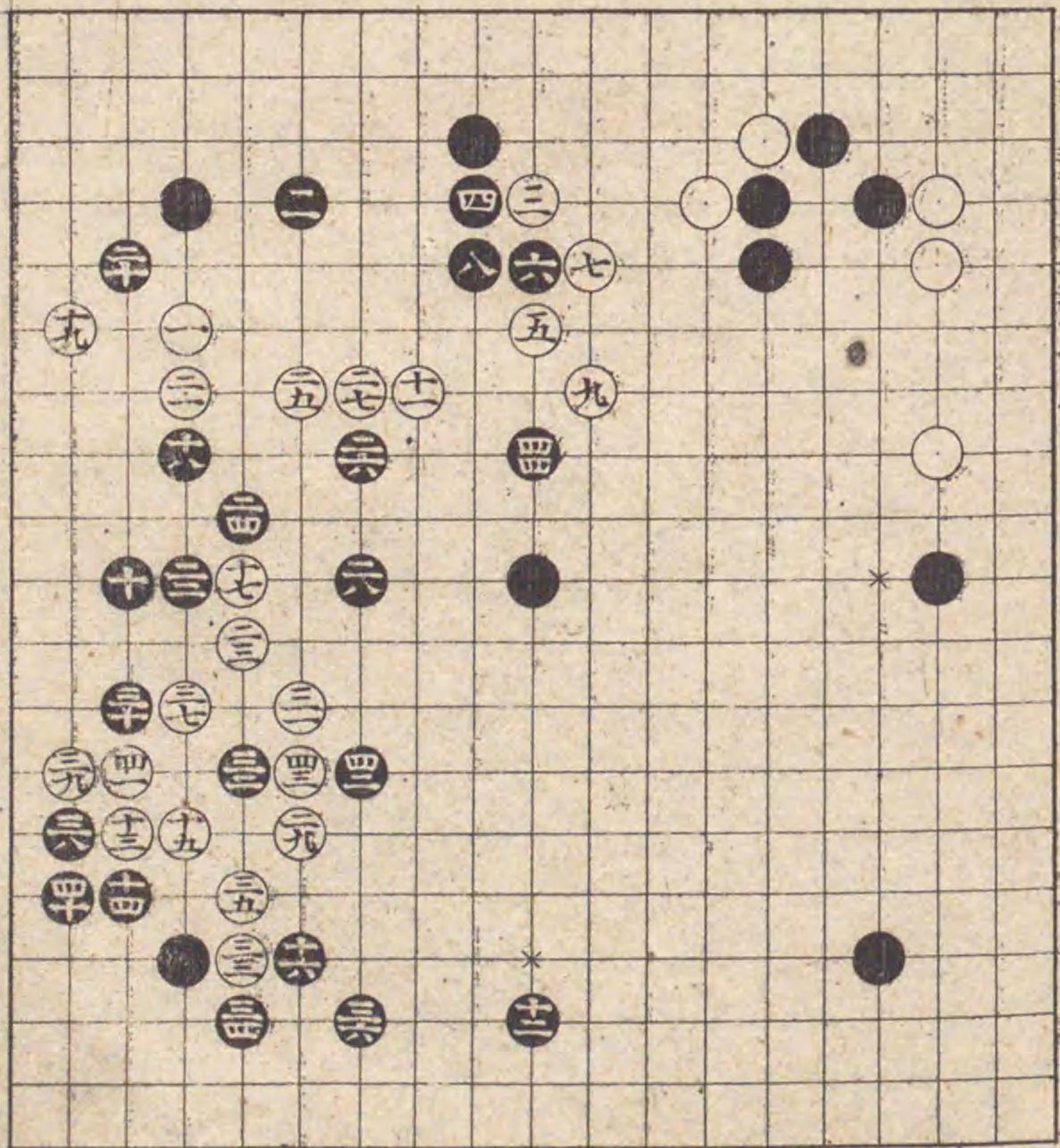
此石立慥かり手筋打能紛れおし



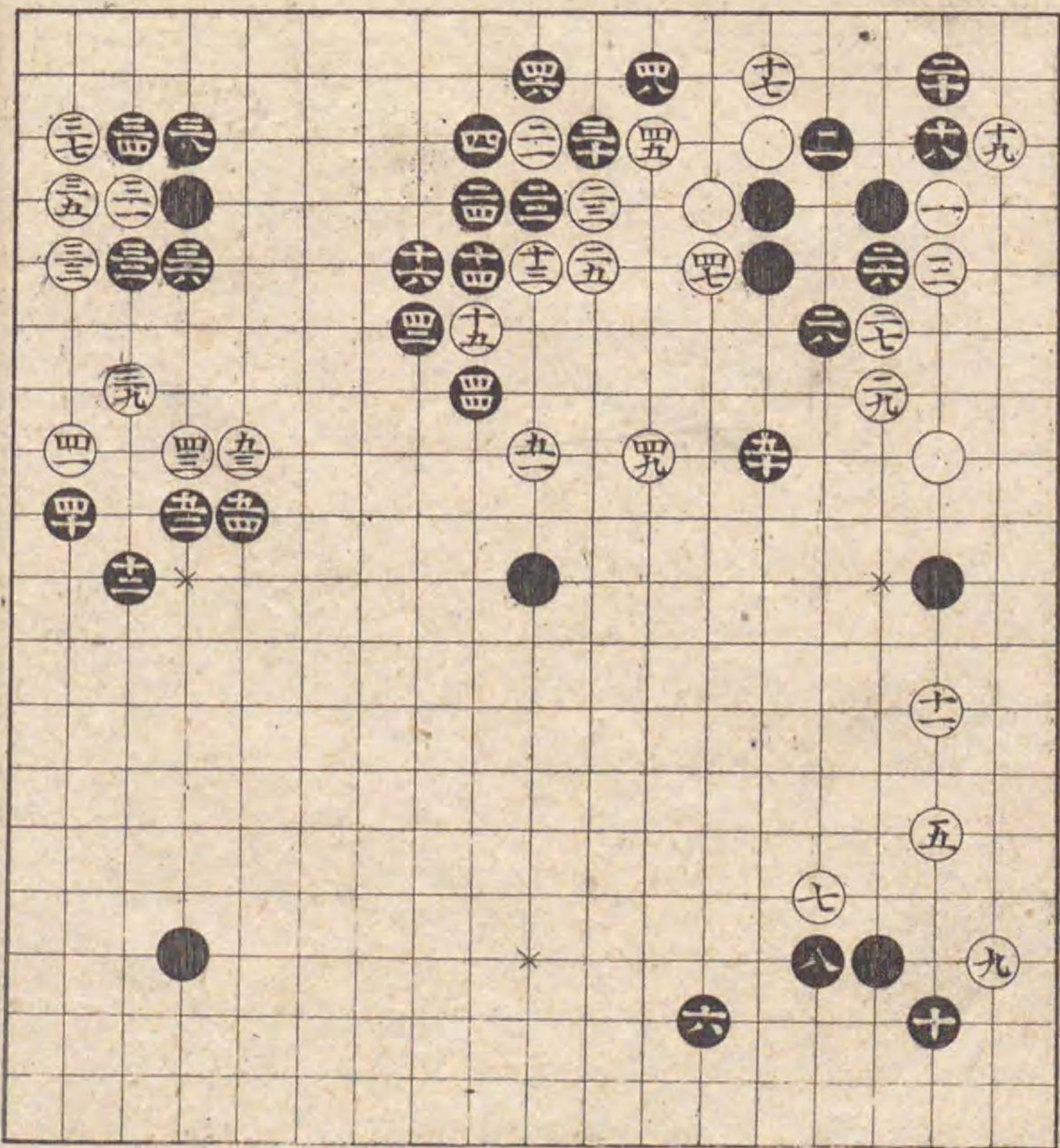
本番白十九の手より替る  
如此替りても黒一筋趣向白の方不て一向紛れ可打手筋おし



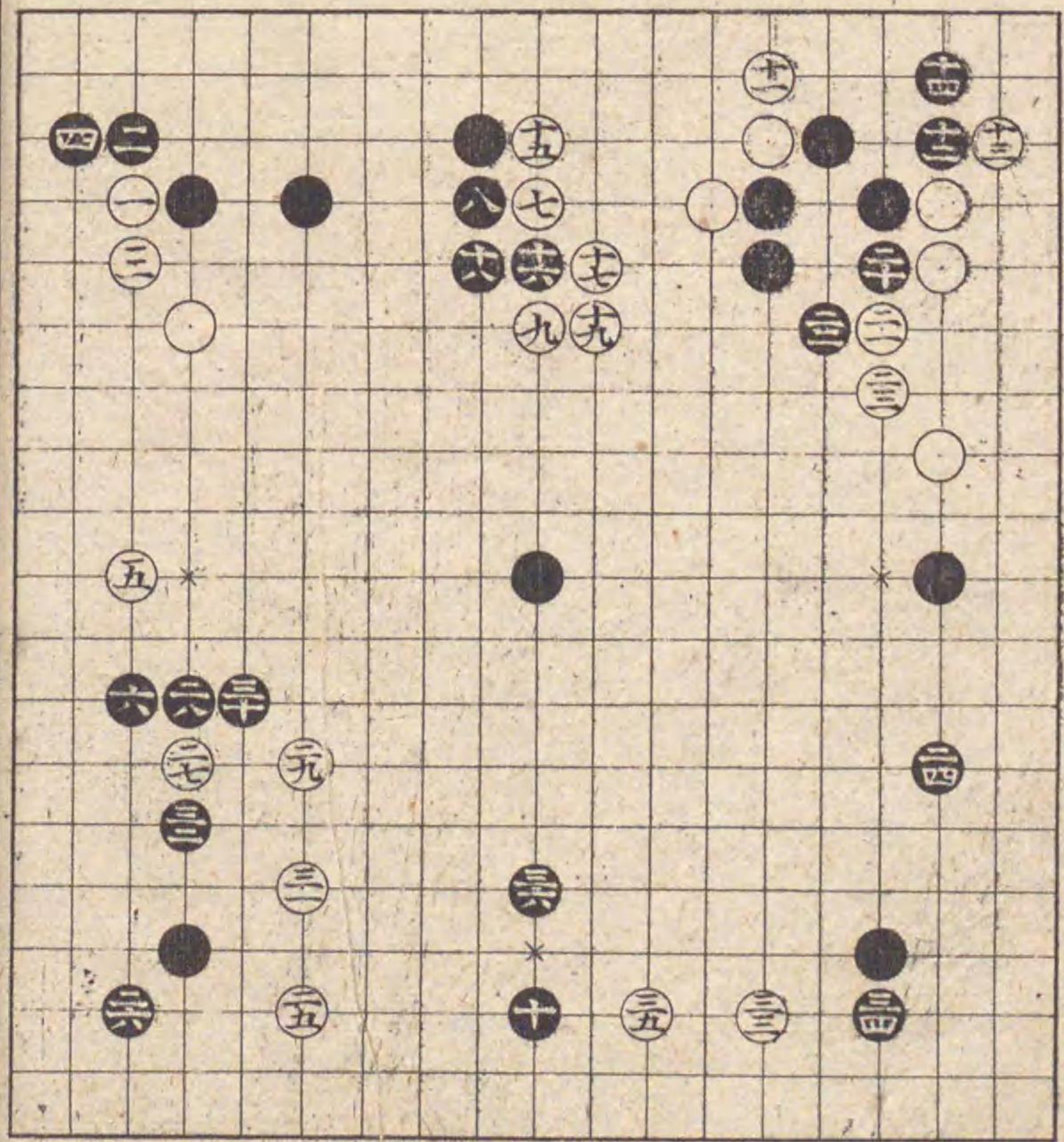
前番白五の手より替  
る  
此替黒打よし免角一  
筋小相成やう如是打  
と可心得次小あつた



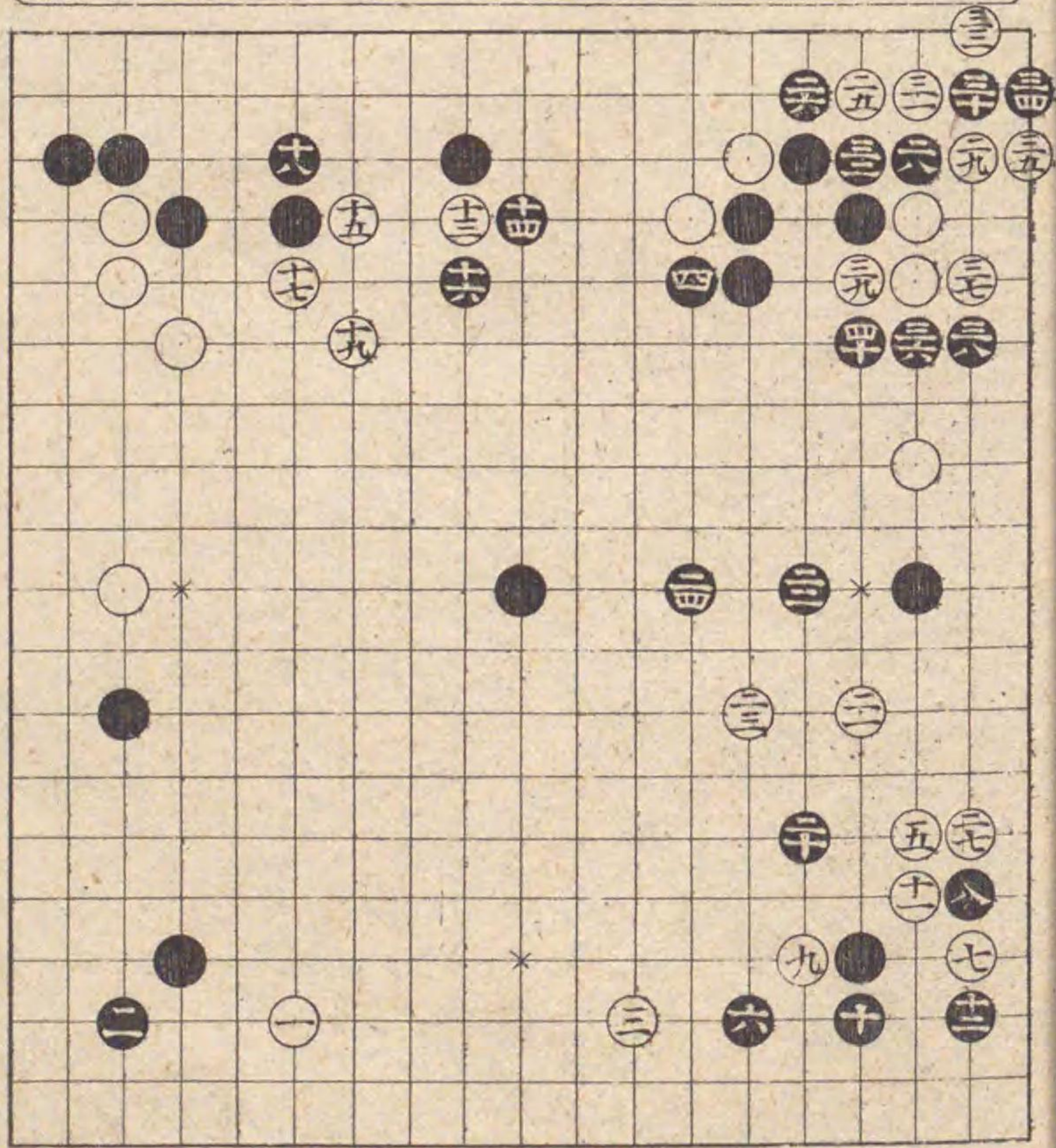
前番白七の手より替  
る  
此石立紛れふし黒五  
二五四の手厚くして  
よし



前番白三の手より替  
 る  
 如是ちりても一向紛  
 れなし兎角中へ進む  
 趣向もへ白少くも位  
 を取と不能

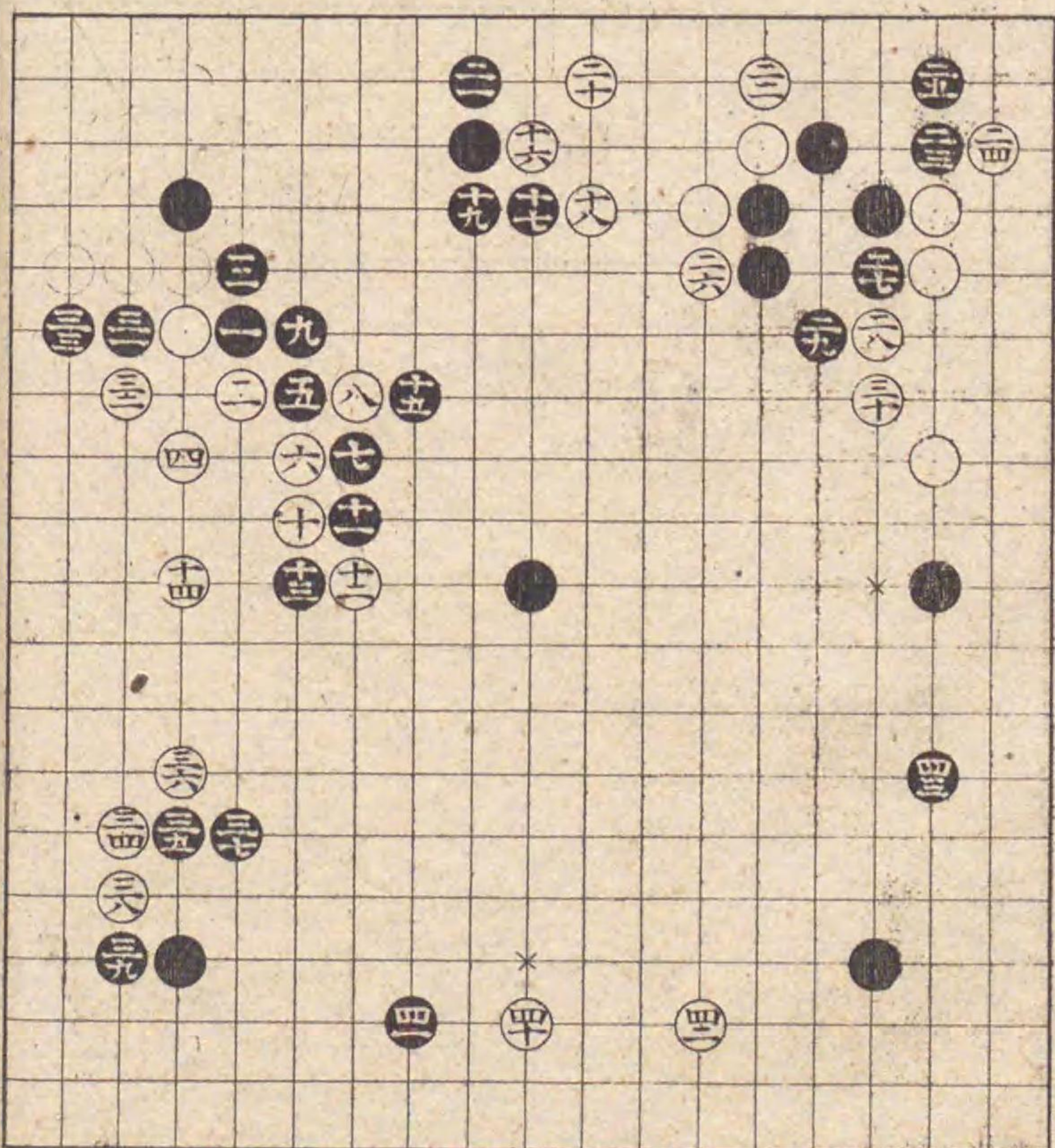


前番白七の手より替  
 る  
 此替り少も白より打  
 べき様ふし

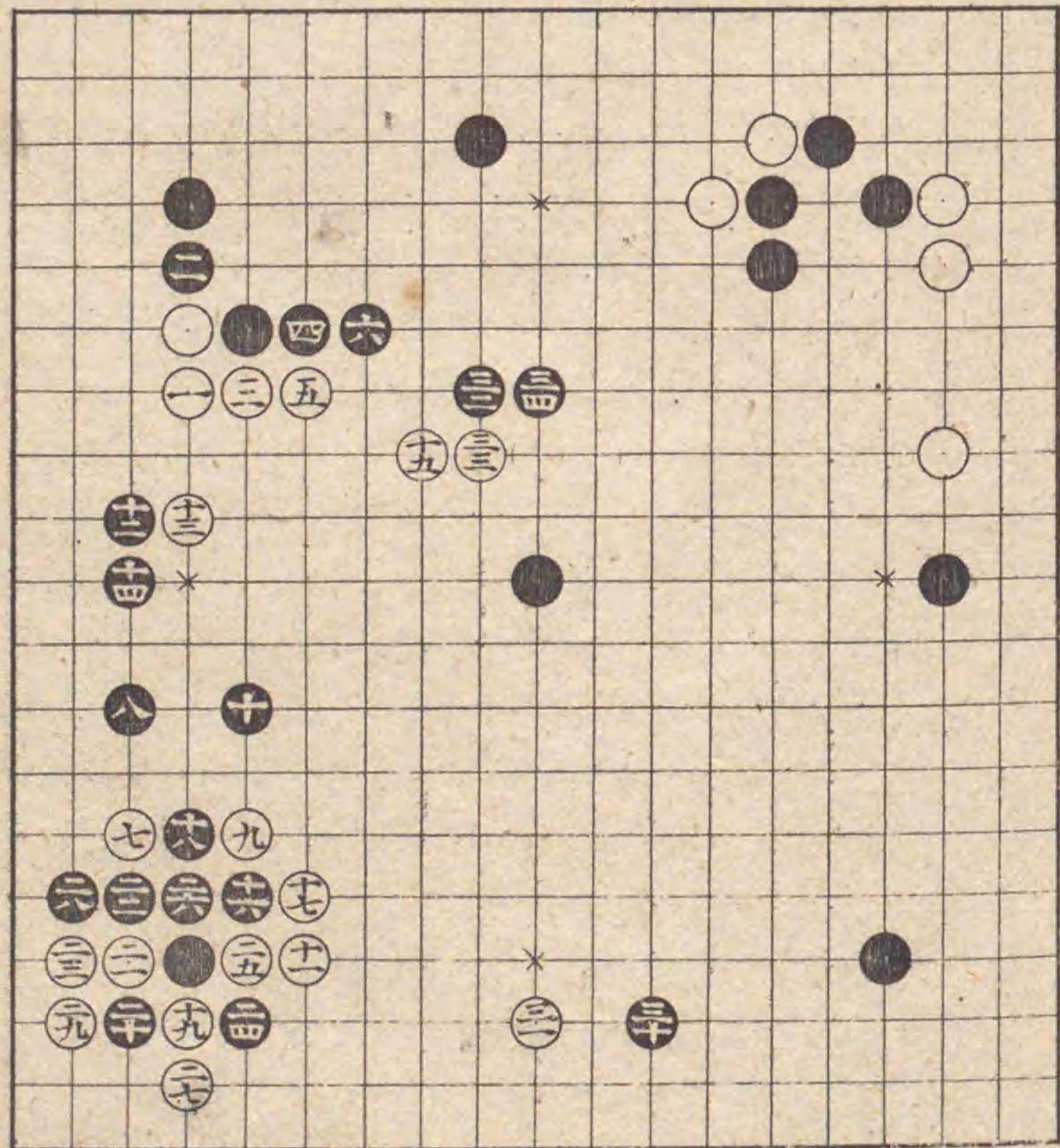




本番より二番目の黒  
 二の手より替る  
 此替り同様ふしも白  
 打べきやうふし



前番白二の手より替  
 る  
 此替如前大位よして  
 堅く相成白打べき様  
 なし



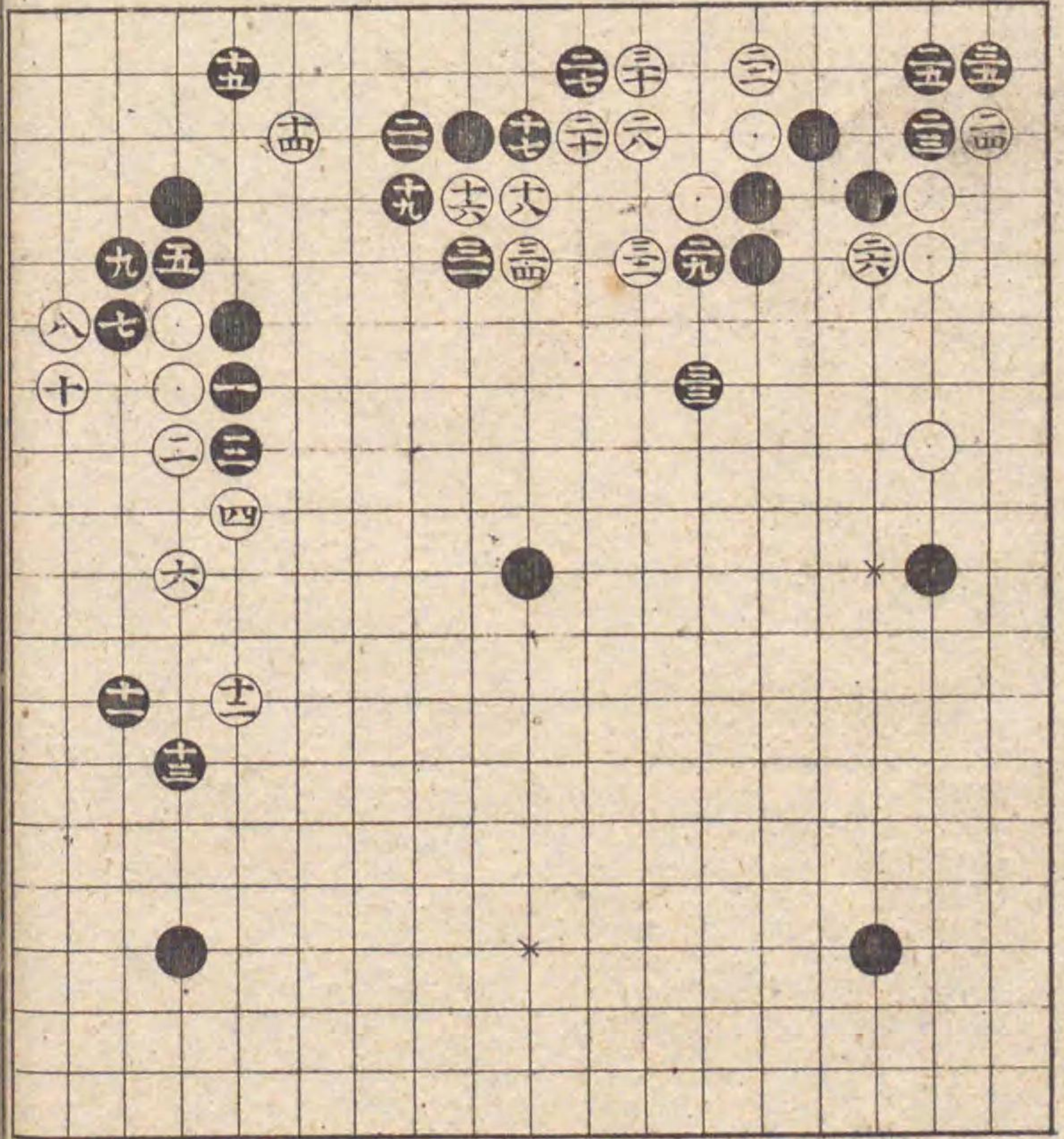
○置其處自在

五目置之部

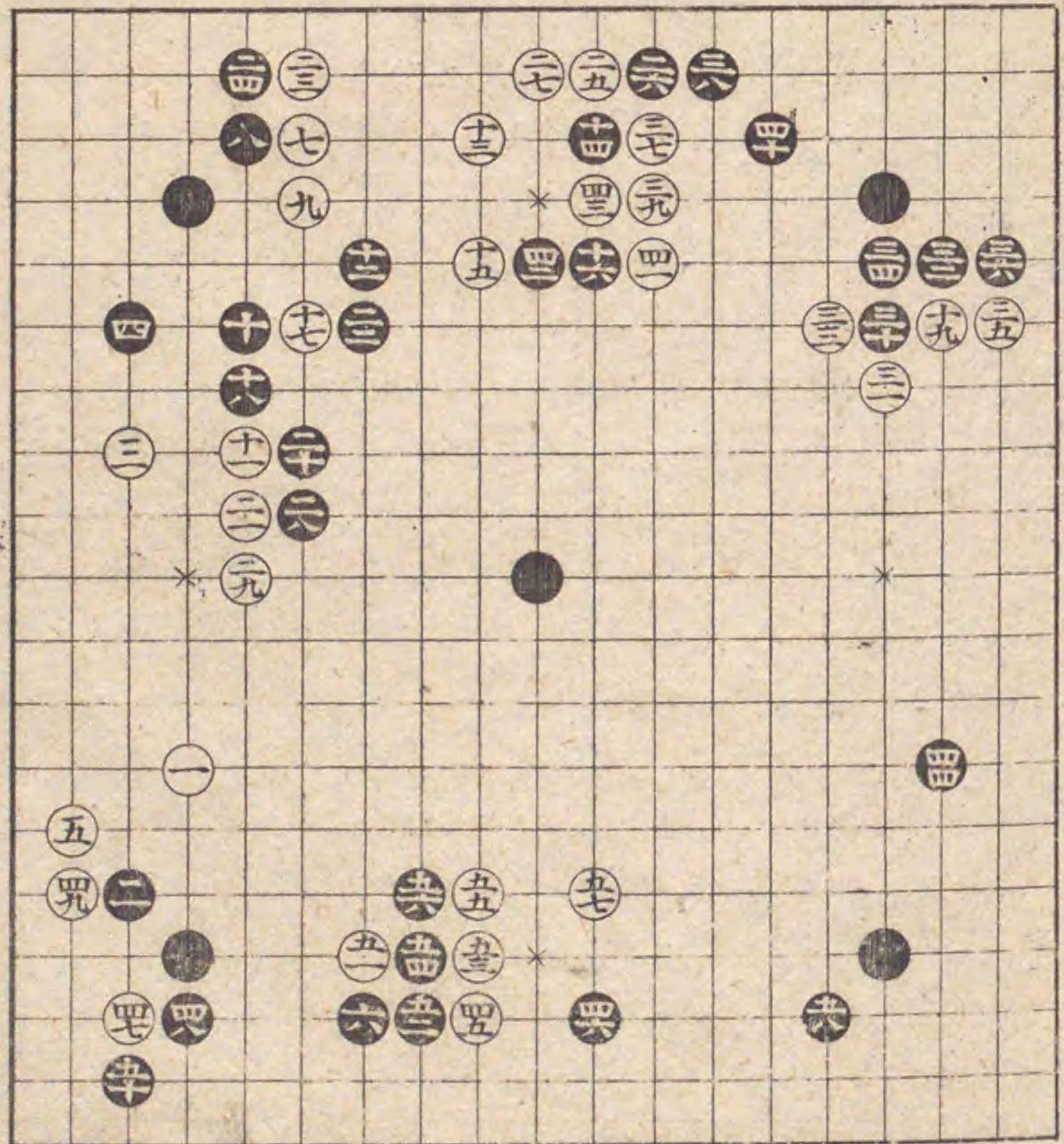
○三十三

方圓書局

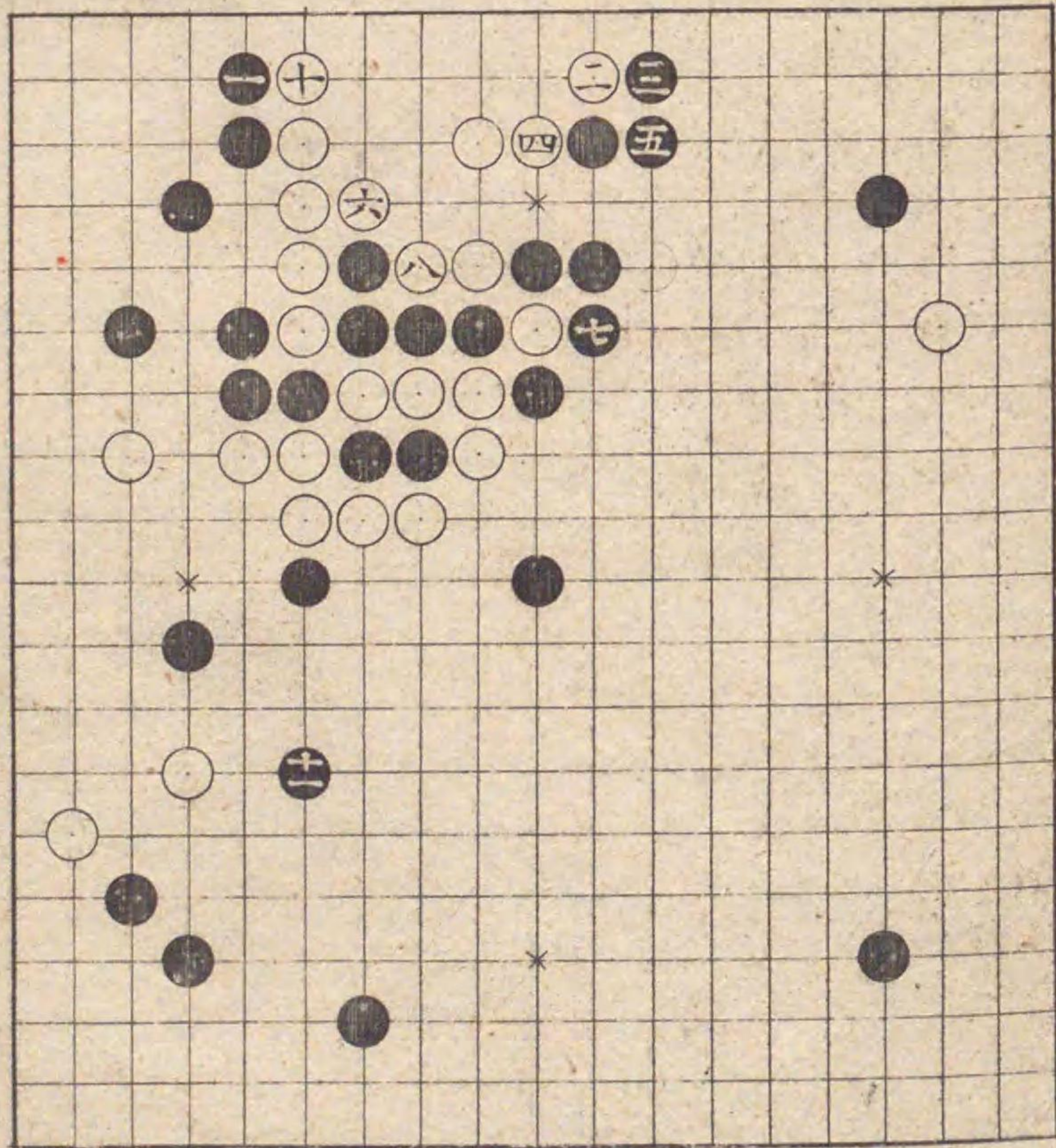
前番黒二の手より替  
る  
如此小ても一向紛れ  
の筋白より可打手談  
かこ



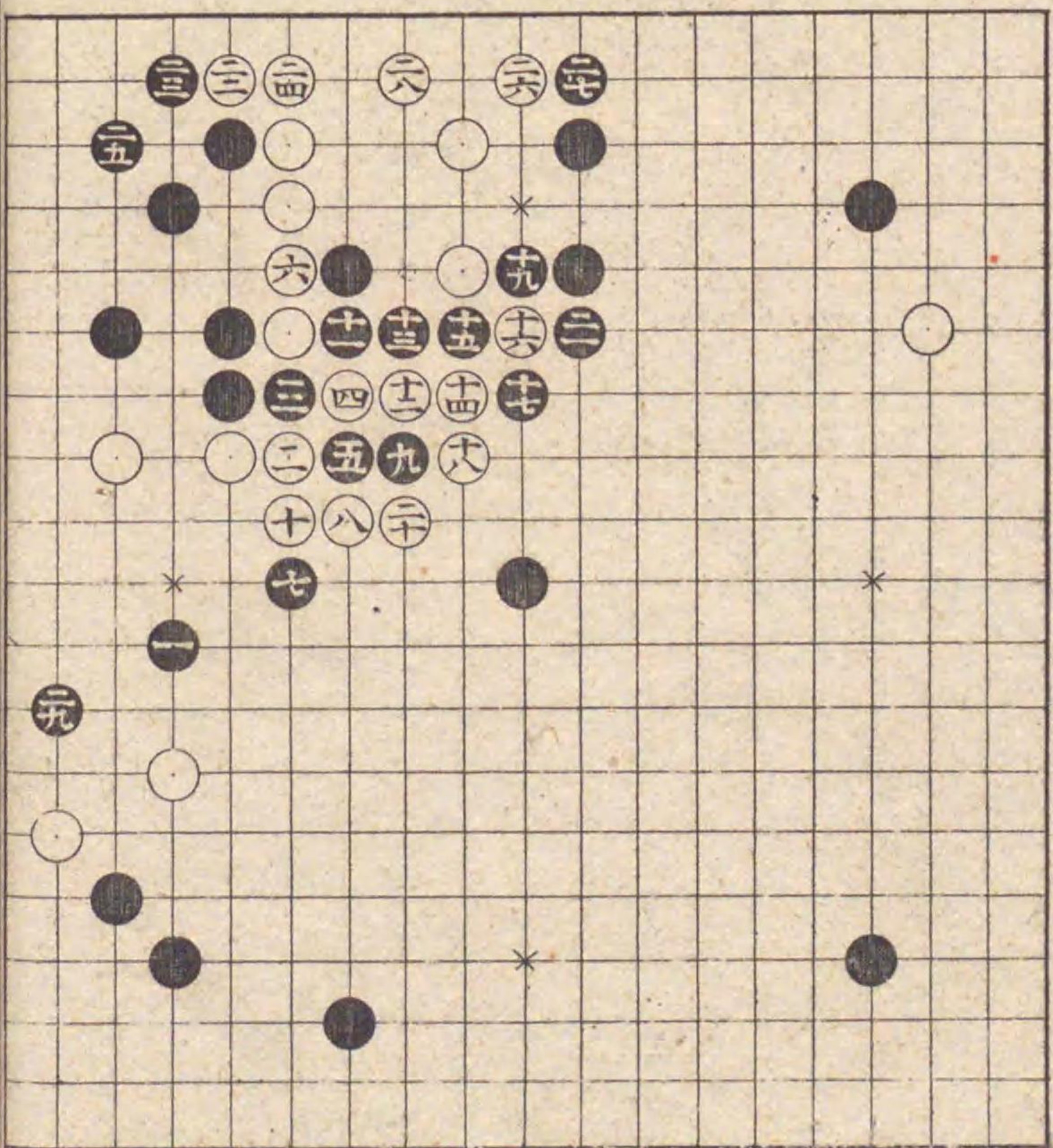
此石立紛れかこ去か  
がら二十乃手ぬるこ  
次小記黒五十二角堅  
故如斯打こ五六手白  
の五七へ打白黒の五  
六へ打其とき五八と  
打もよこ



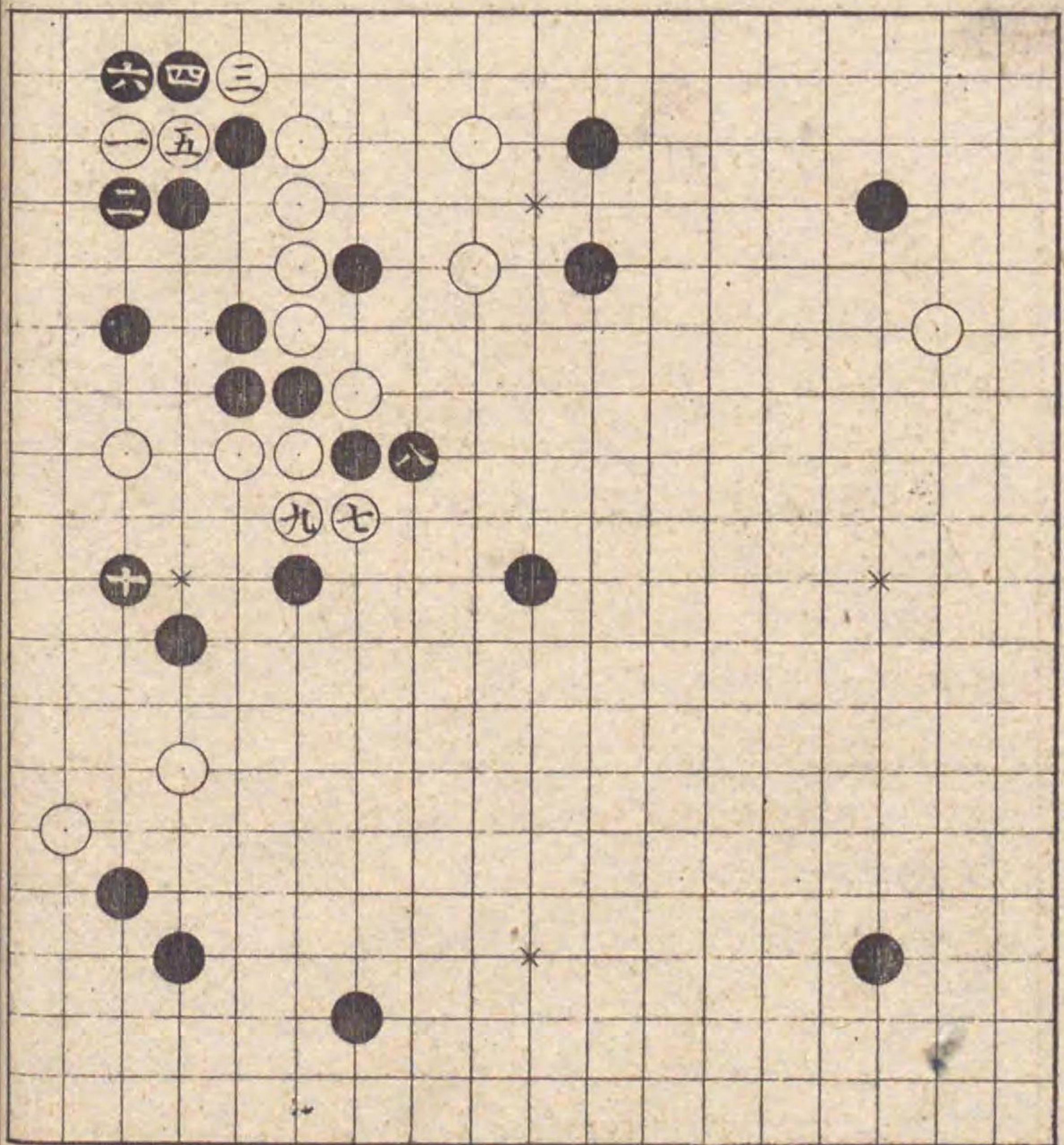
前番黒二一の手より  
替る  
九粘



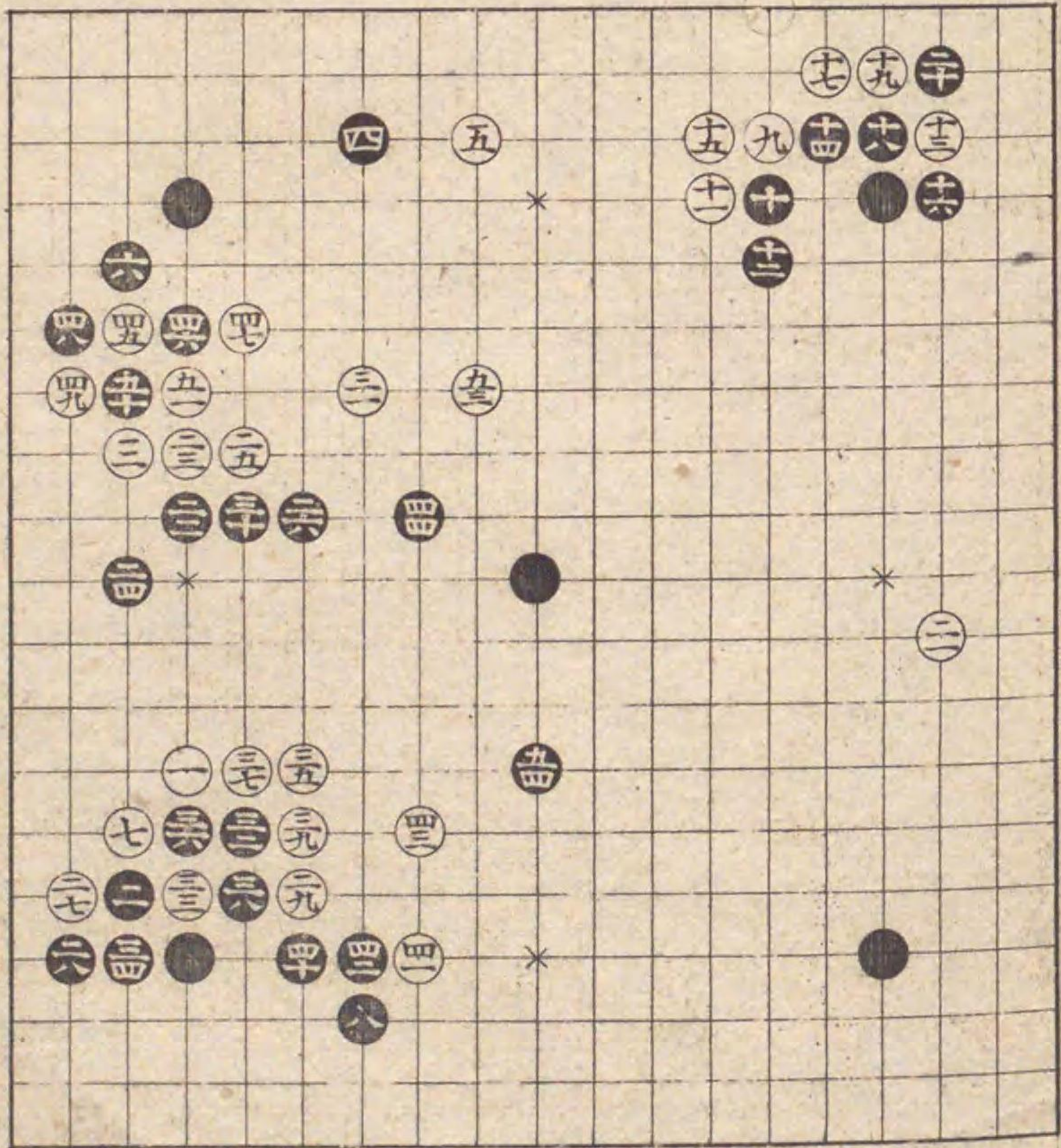
前番黒二十の手より  
りマる  
如此打てもよし黒二  
一の手替次ふちるす



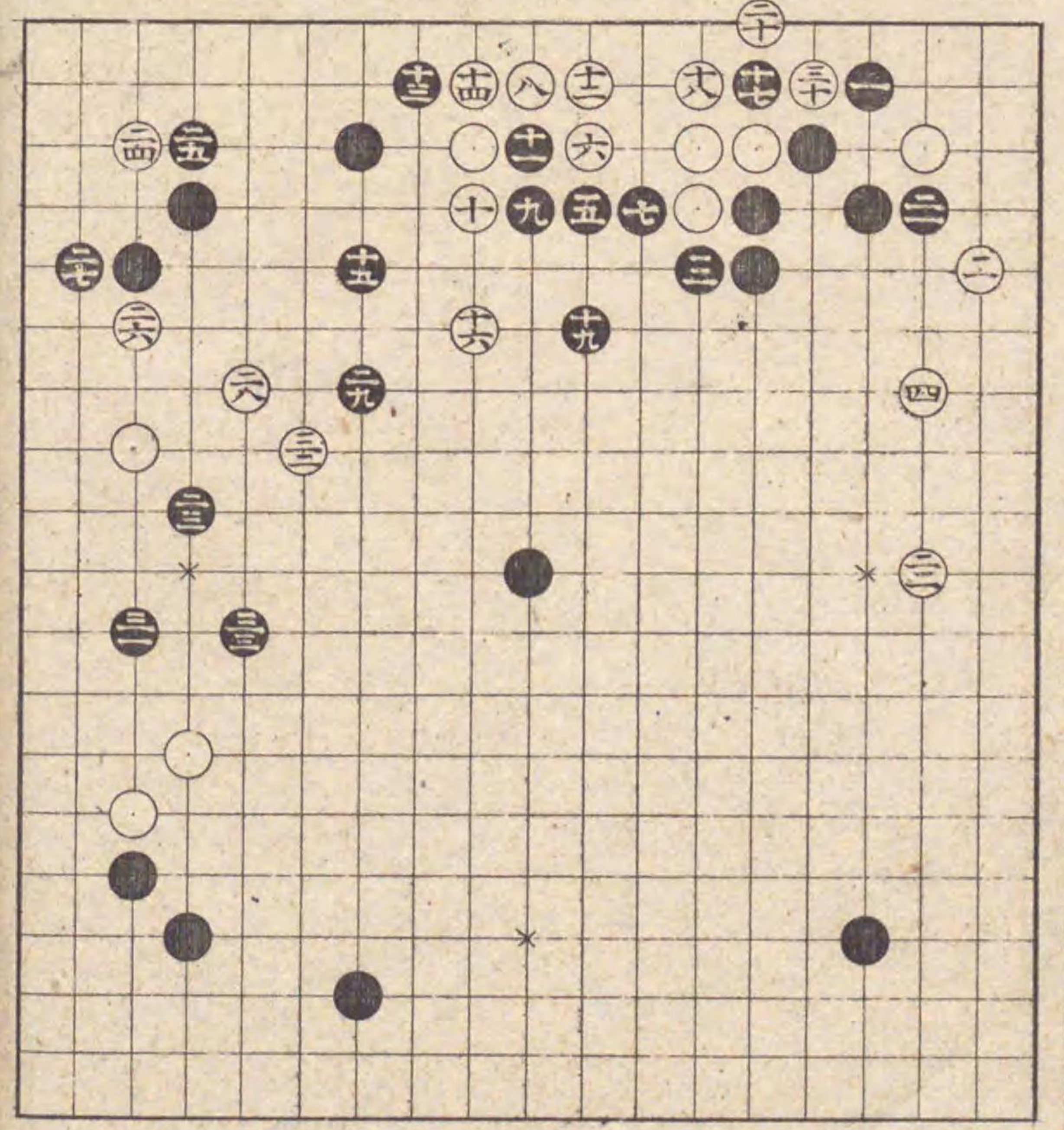
本碁白八の手より替  
 る  
 白角へ打込如是ふる  
 とき八十と打て吉白  
 の打やうに依て種々  
 打やうあり石立宜ま  
 とまハ手筋おの流り  
 らいづれへ打ても打  
 能者なり心得べし



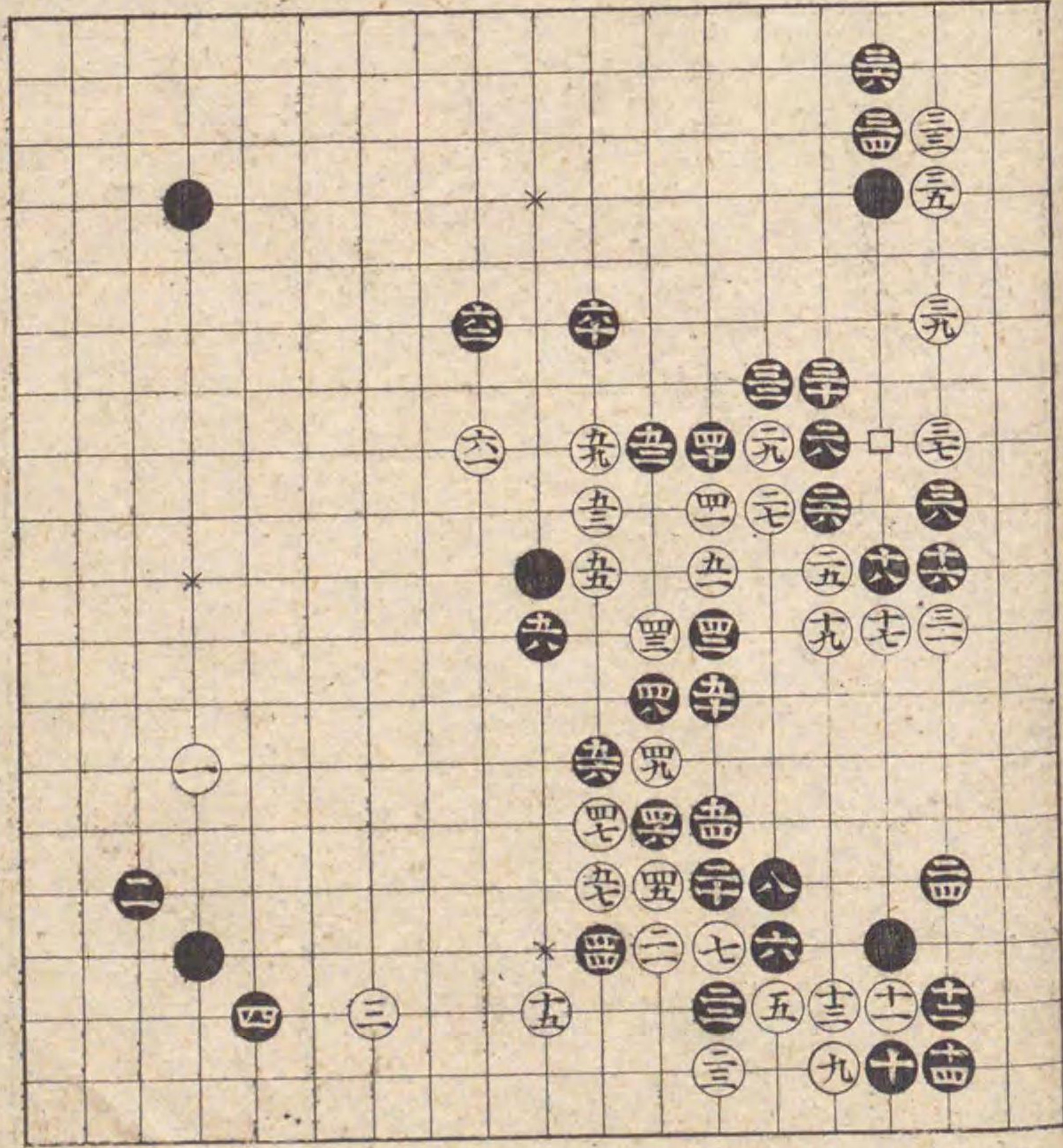
黒十六の手少しぬる  
 し乍去如是ありても  
 紛なし替り次ふしる  
 以  
 粘



前番黒十六の手より替る  
 如是ありてハ白決死  
 なり黒軽く強打手談  
 なり心得見るべし三  
 一の手よし左右へ強  
 くあたり至極宜き手  
 こ



此石立手強く大位不  
 ちて紛ちし二六と打  
 事番毎小有口印へ一  
 間飛小打へりら注々  
 様小打時ハ一筋不志  
 て打よし四十と打四  
 一と打せのそきよし  
 間々有手筋かりちる  
 すべりら流



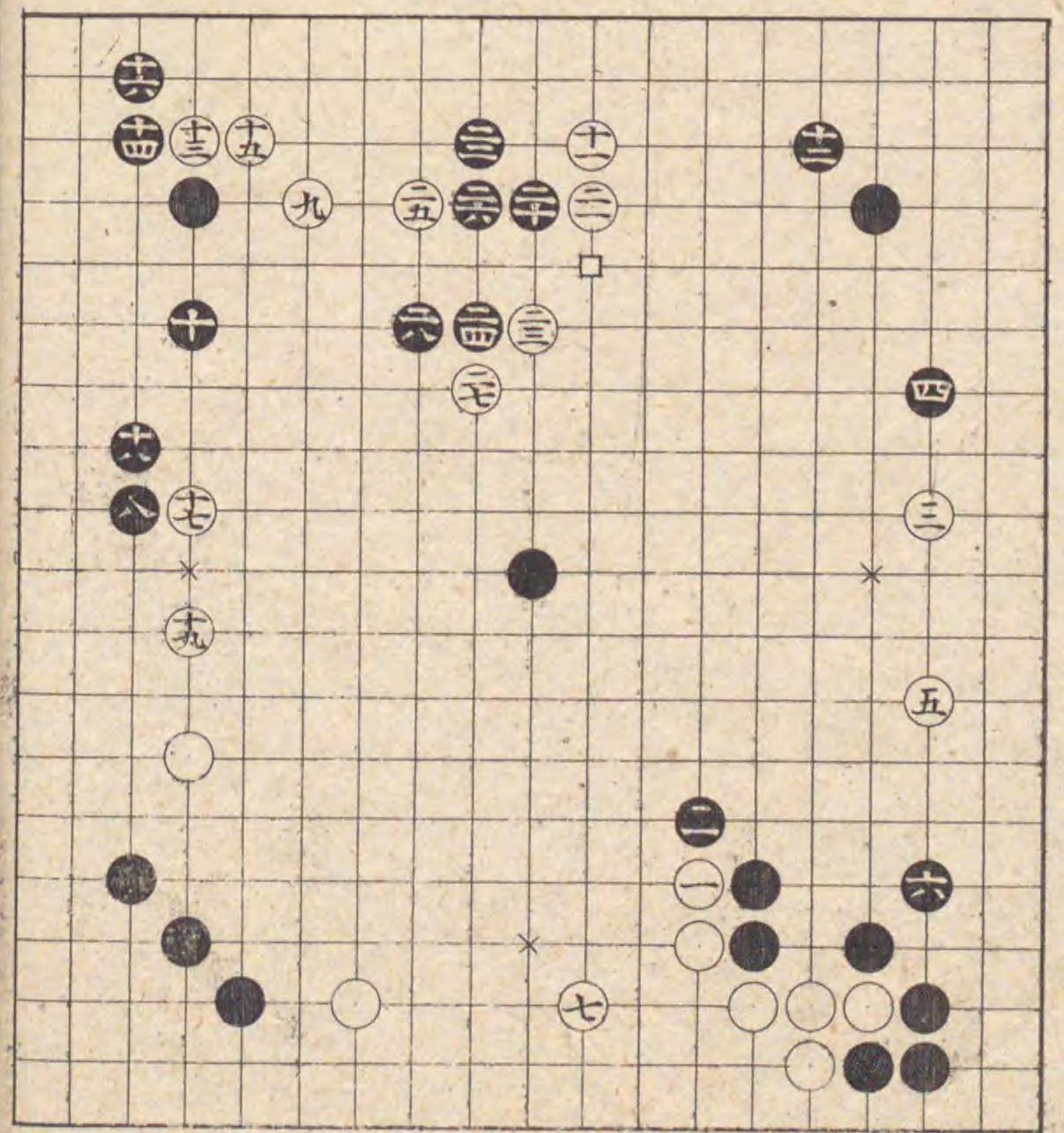
◎置 其 局 自 在

五 目 置 之 部

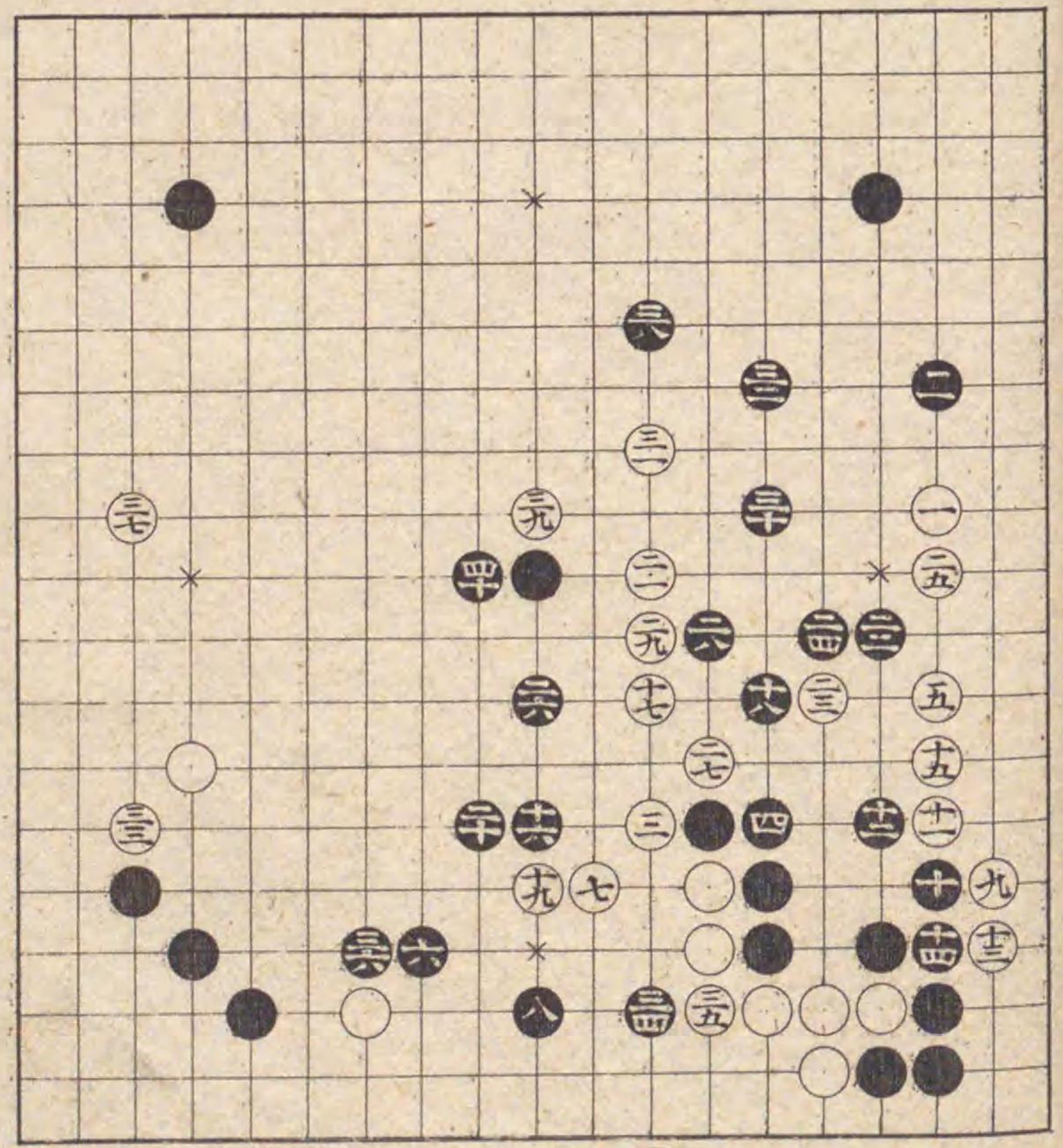
○ 三 十 七

方 圓 書 房

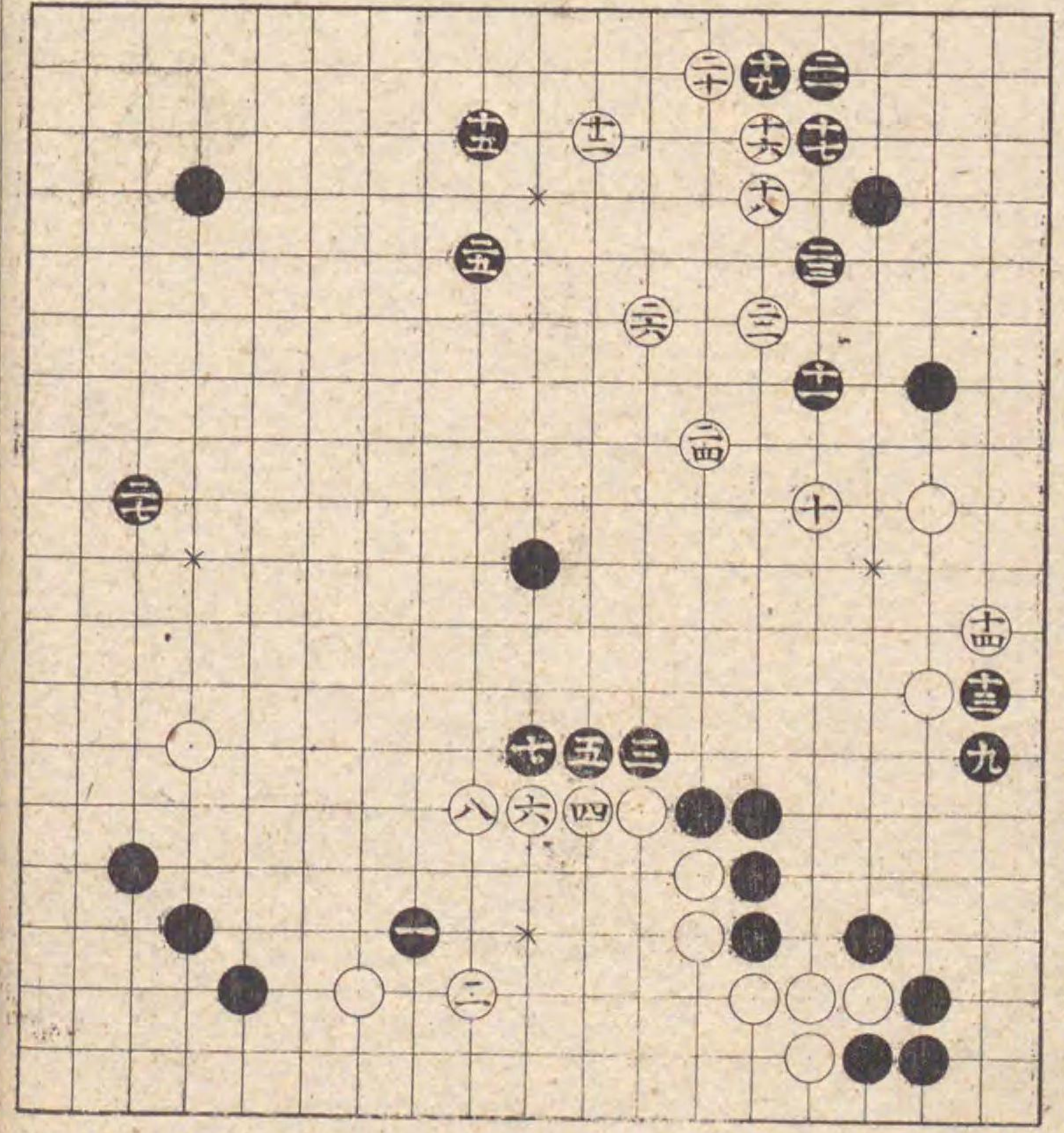
前番黒十五の手より  
りまら  
此石立替り黒大ふよ  
志黒二八の手口印へ  
そねて打方も吉何れ  
ふても一向紛れふし  
白打ふくまふとのま  
り



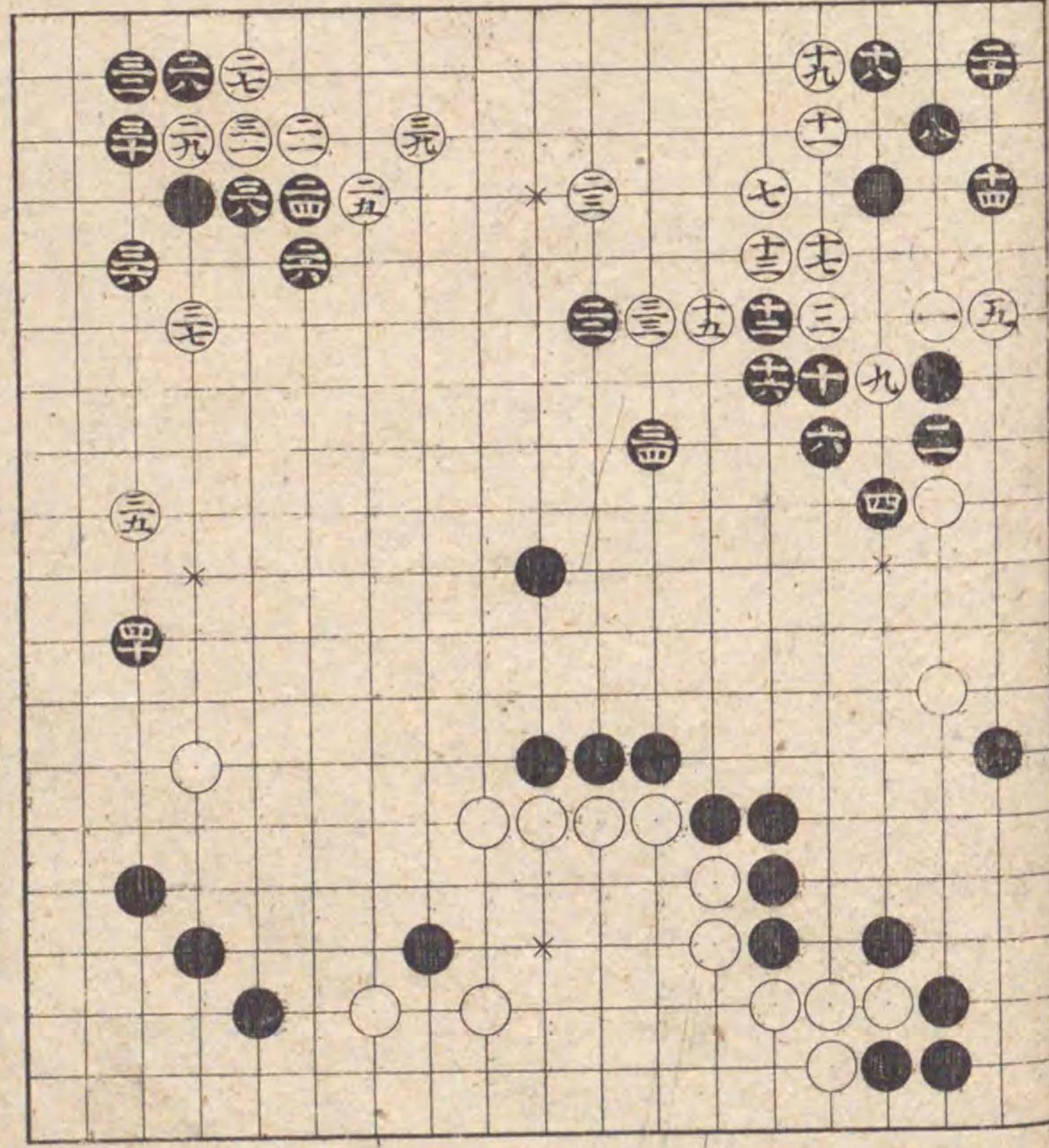
前番白五の手より替  
る  
此替り黒如此打時ハ  
後内黒のハの処白  
打時ハ三七の白の手  
あたりへ打故黒よし  
白三三と志まれハ黒  
も三四三六とうち志  
まり打こ此心もちあ  
るすべからず



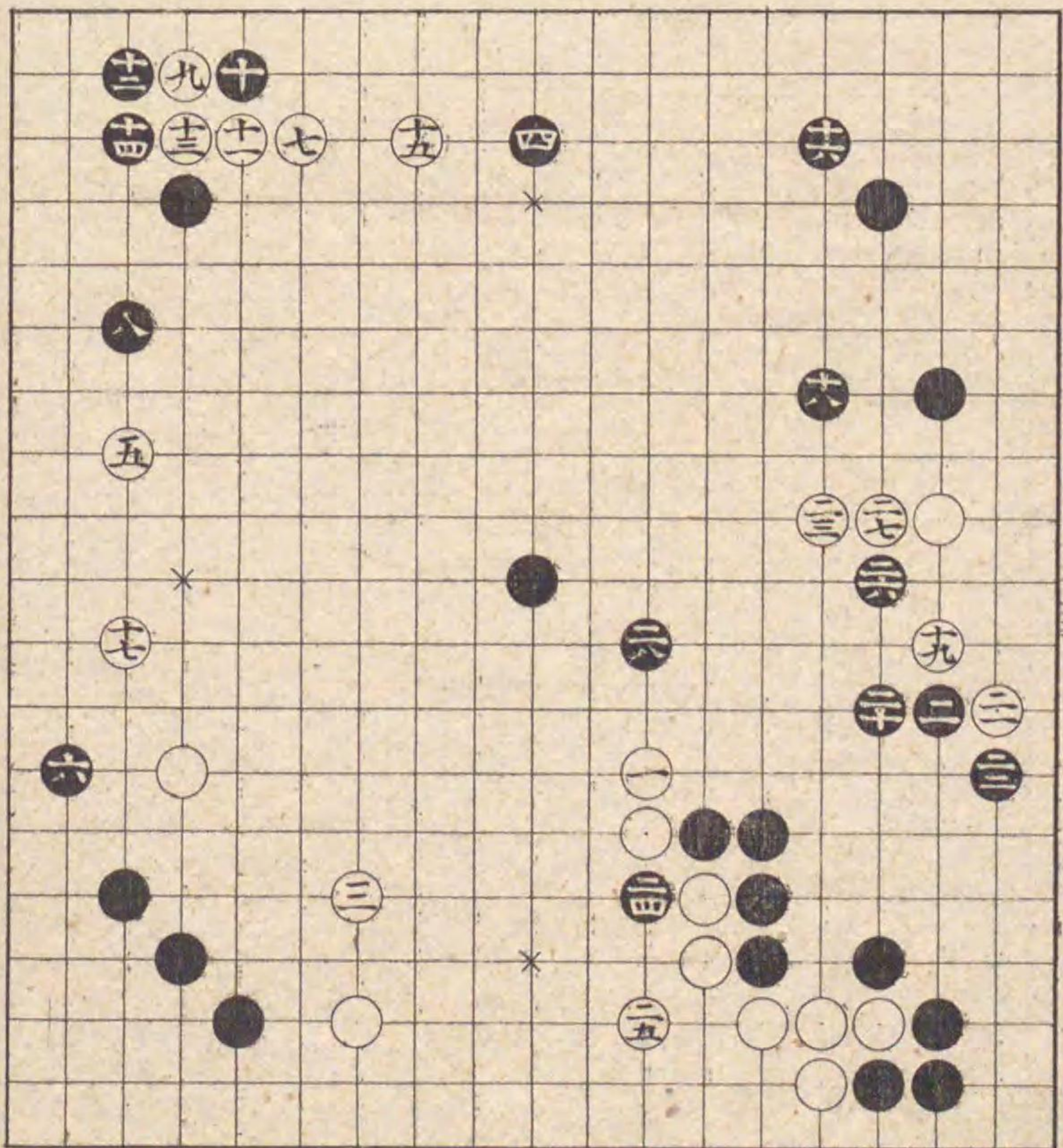
前番白七の手より替  
 る  
 此替り黒堅く成て吉  
 三の押ある故九と白  
 をせりて打かりかや  
 うの所まで常の処お  
 不可打強く不打して  
 ハ上の押の処面白り  
 らず心得可打とこあ  
 るすべからず



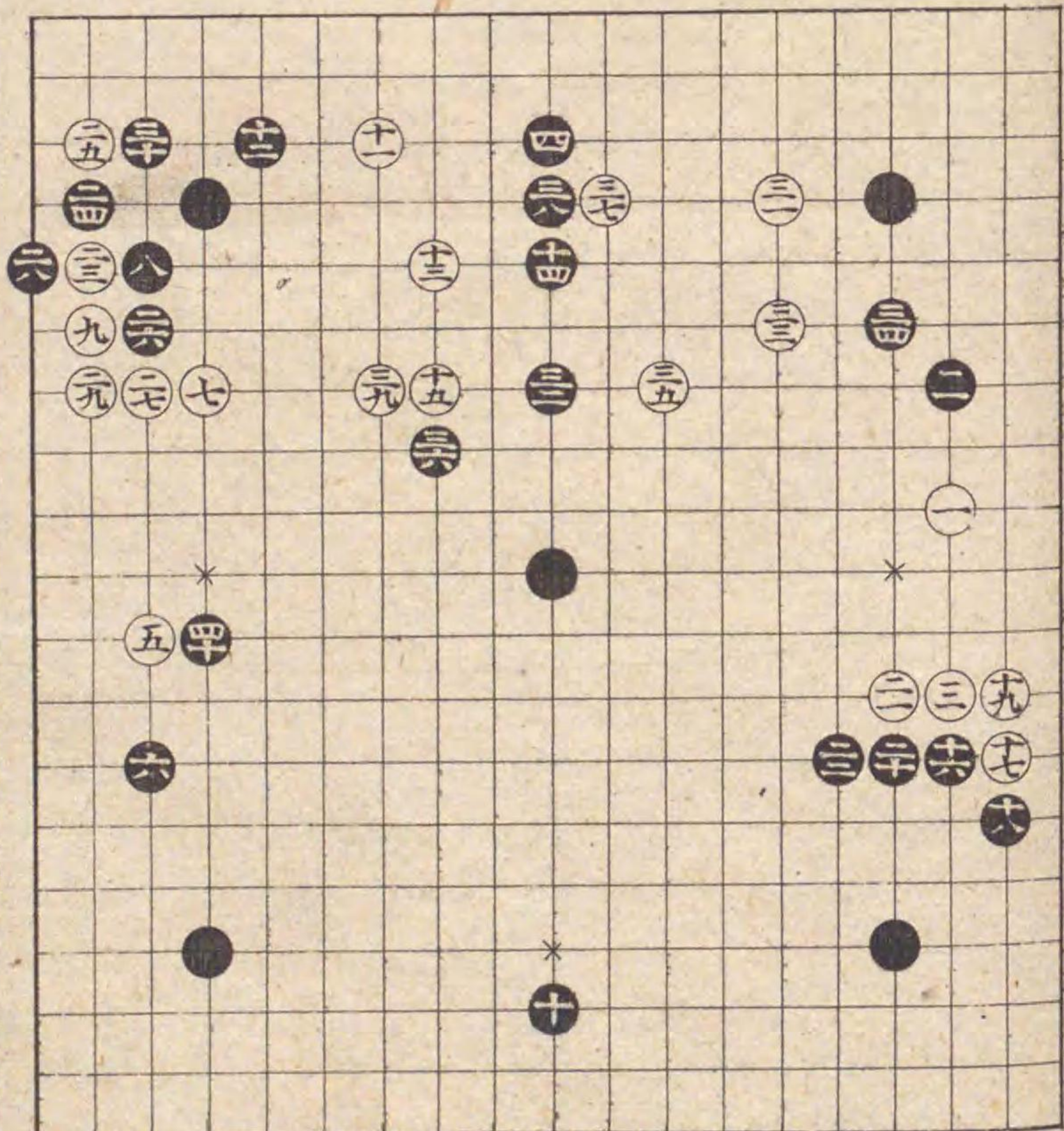
前番白十の手より替  
 る  
 此替二と打吉黒六吉  
 位小打事第一之白三  
 七打吉外を打ハ白の  
 二五の手へ舟て打故  
 三七と白此のどく打  
 かり打込こゝろへあ  
 るすべららぬ



本番より二番目の白  
五の手より替る  
如此替れとも黒亦如  
是替て打ち六の手  
常ハぬるも此処不  
ハ吉十八吉二八左右  
へ聞く手心得可打急  
不せりうたげして強  
く白へ當り至極宜手  
之可心得

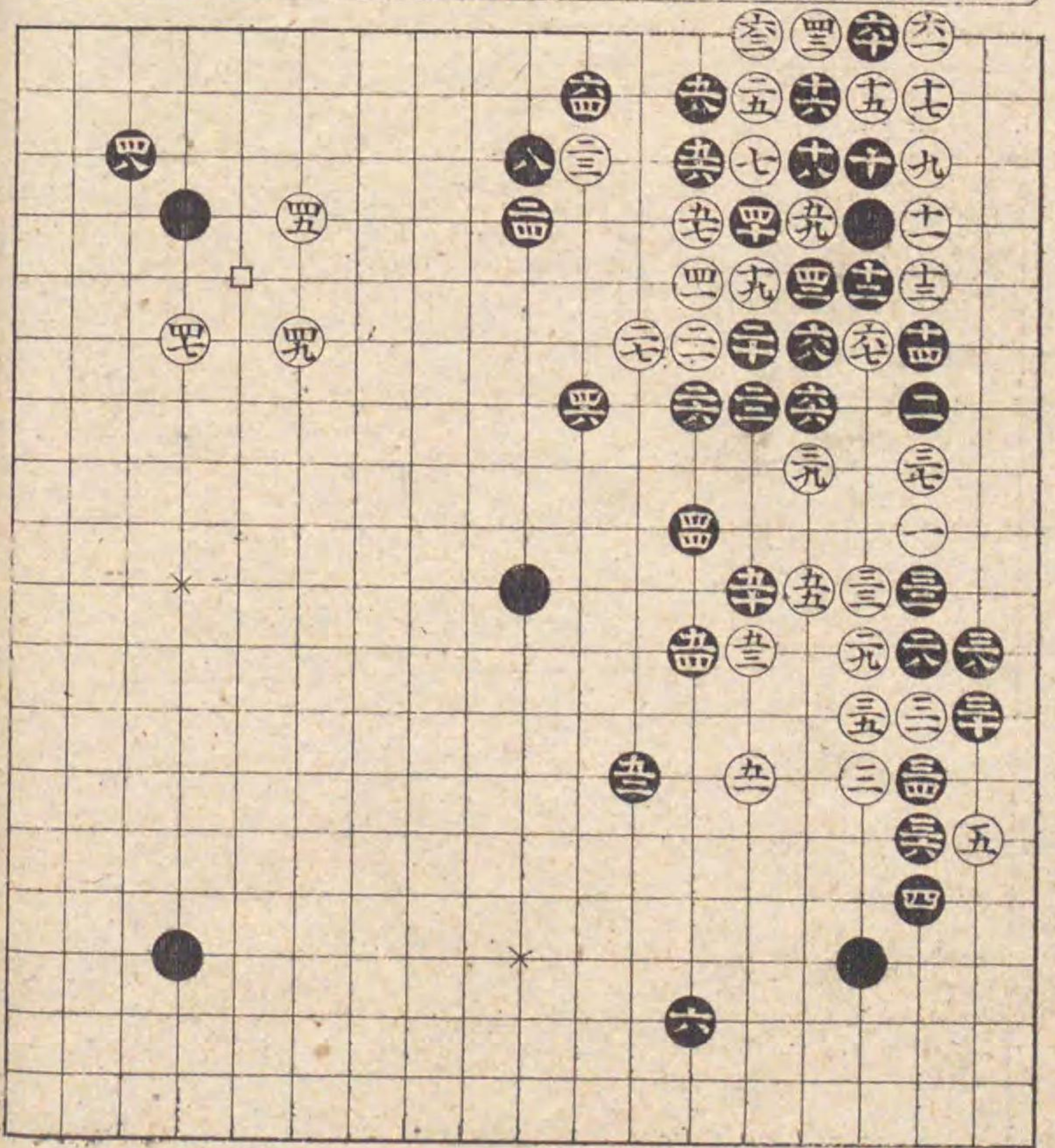


如此の石立不相成て  
ハ黒位大起く白液り  
へて黒打はし

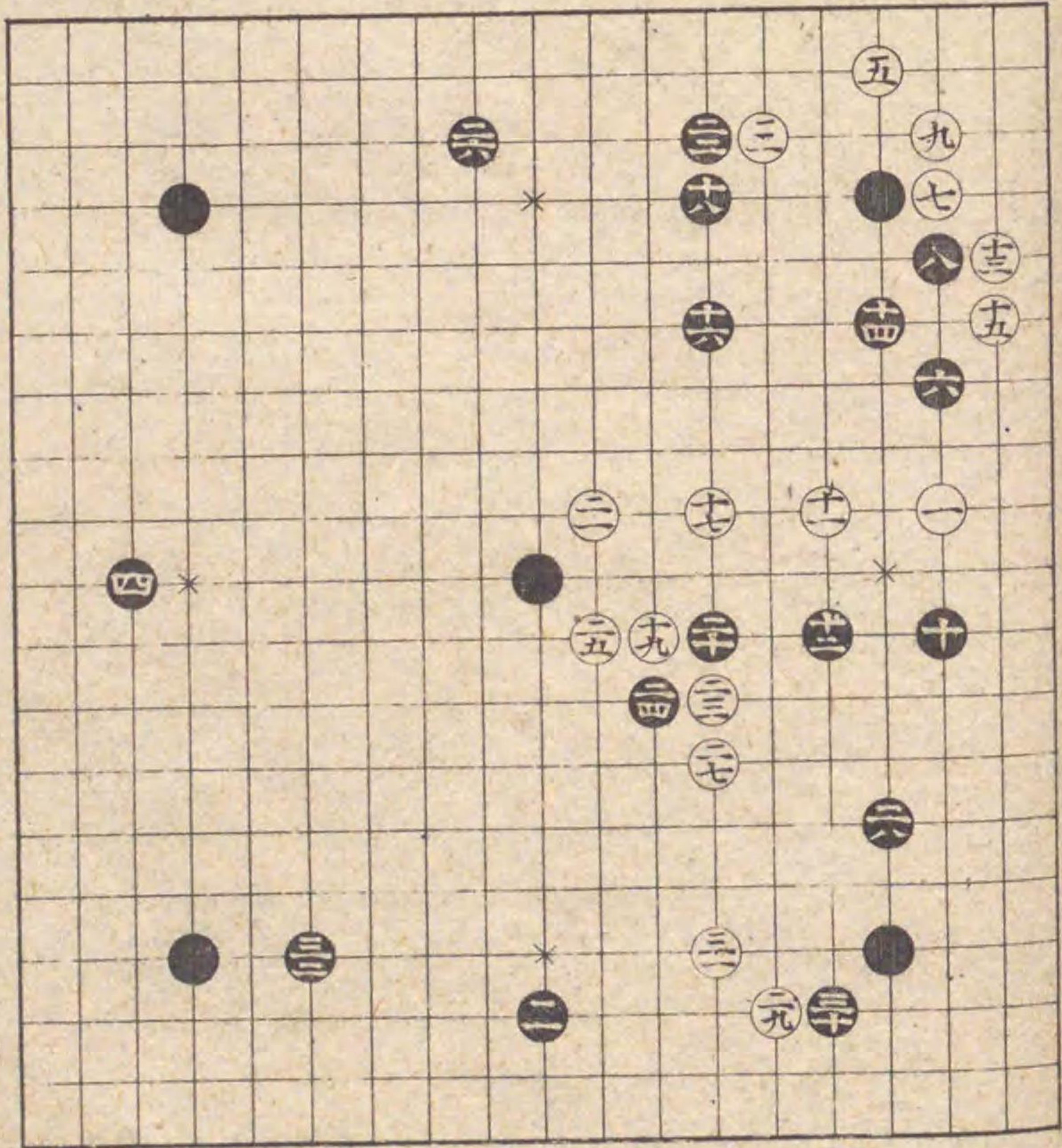




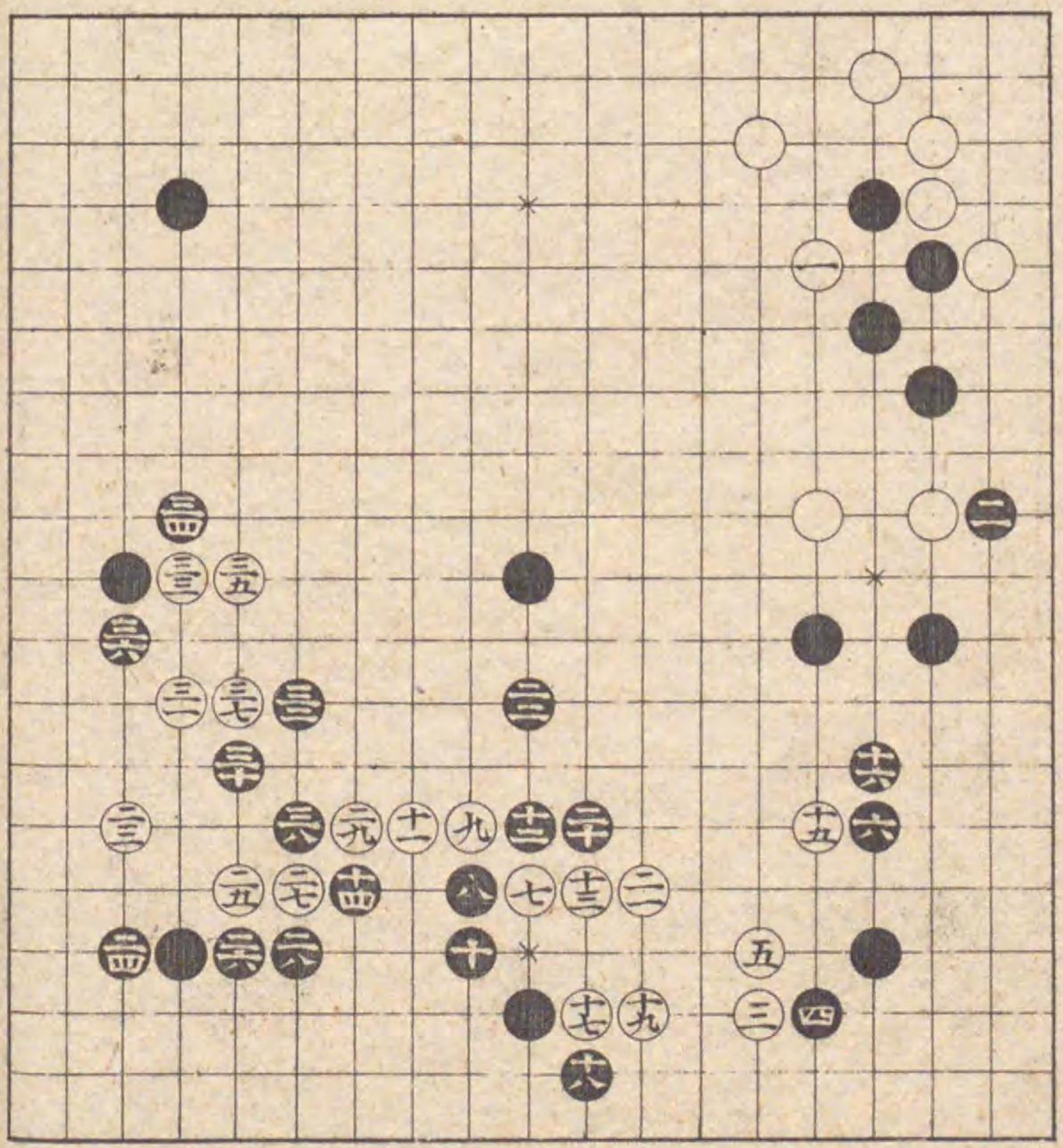
此石立黒堅くして紛  
れおし四八と打音口  
印へ尖打時ハ白より  
黒の四十八へ打故如  
是吉  
⑤ 劫とり  
⑥ 同



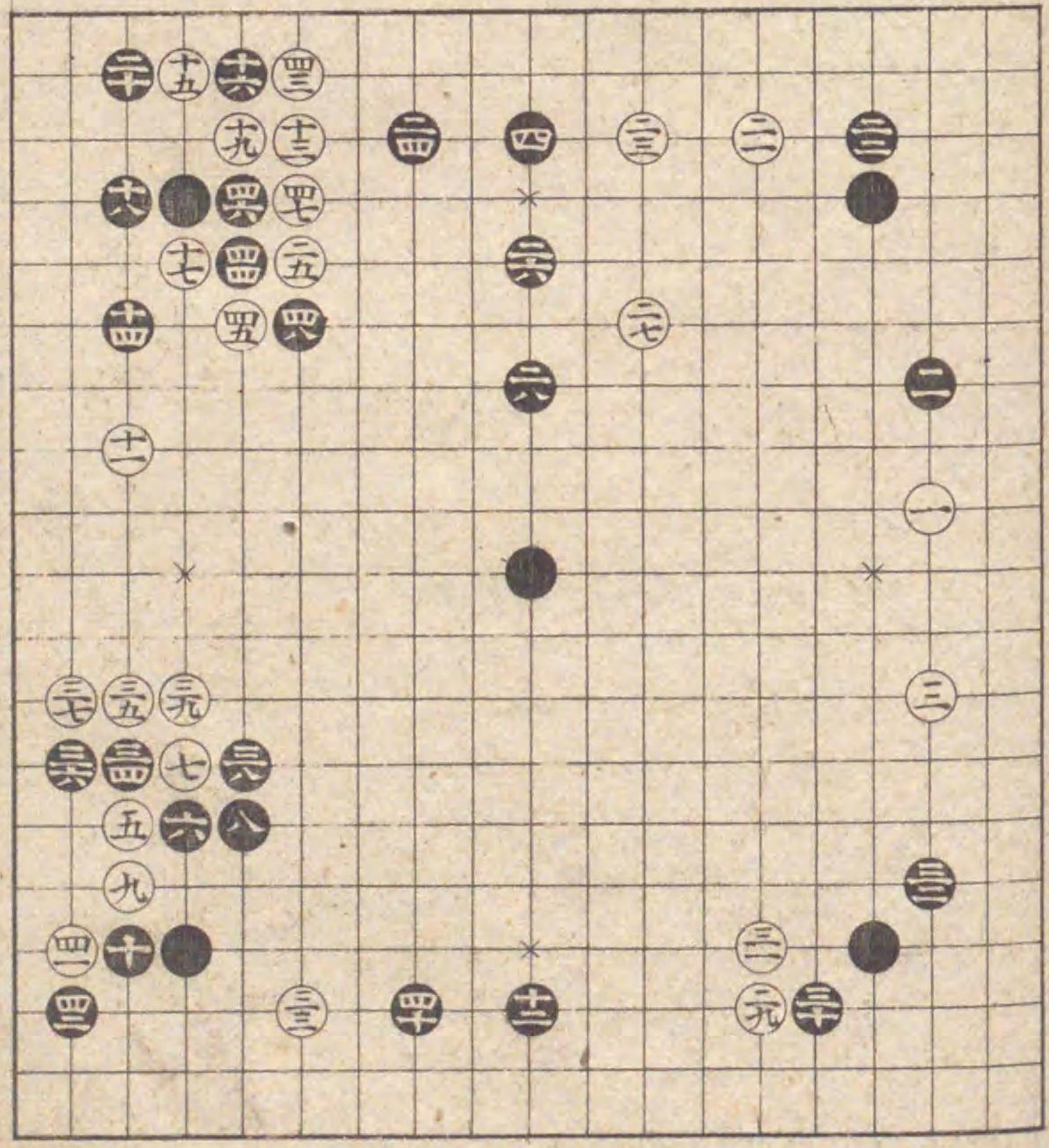
黒二十の手吉二四吉  
一目捨て打白より一  
目取れば劫ふきめて  
打もへ白悪し故小白  
如此打あり如斯手筋  
間々ありとこ心得可  
打事



前番白十五の手より  
りまら  
如斯石立ふてハ猶々  
黒吉



此石立慥之三四の切  
常ハ悪し黒十二の手  
ある故四十と一間飛  
不成て出る手なし故  
小紛れ方く此処と  
次小記す



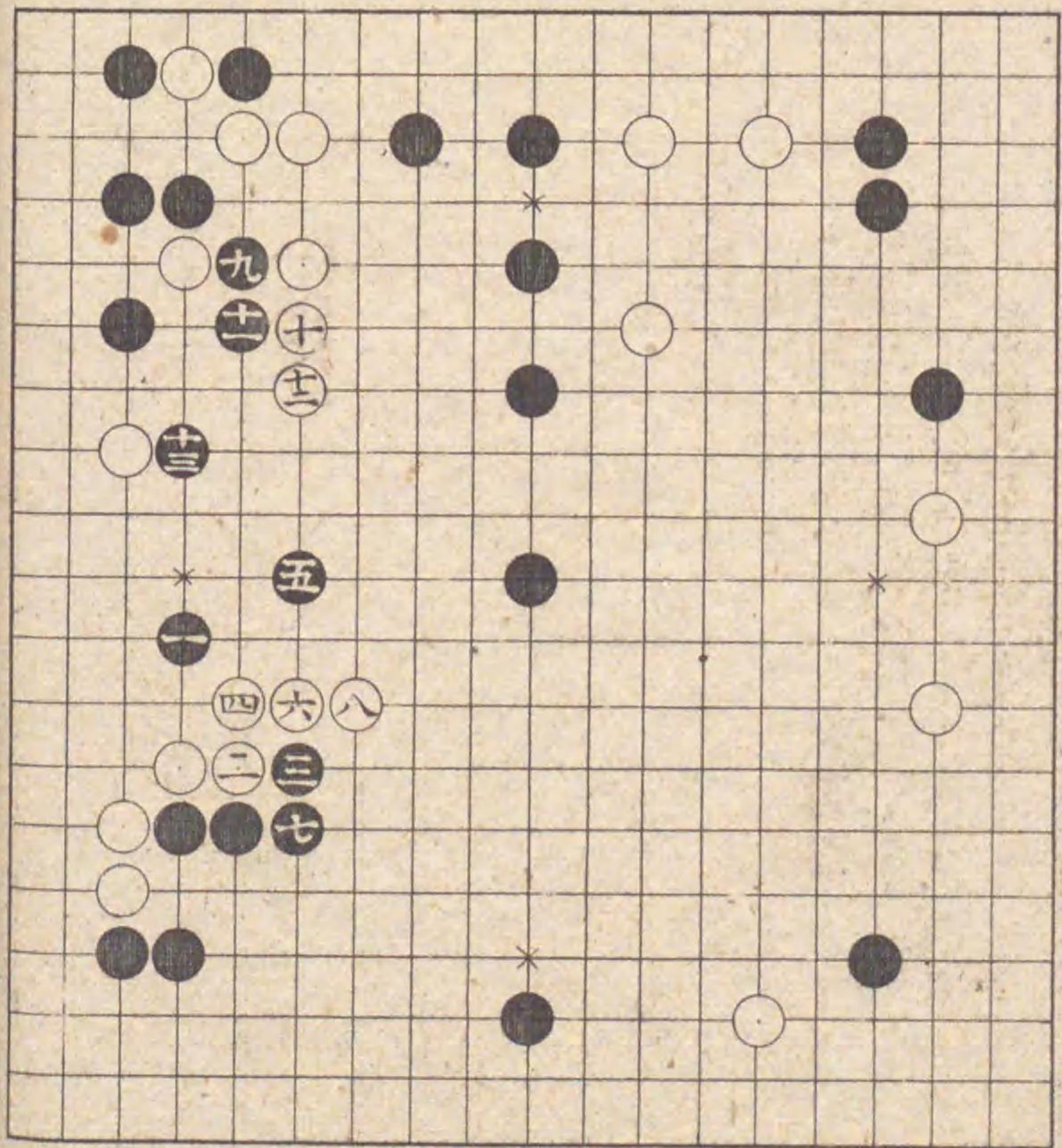
○置  
葛  
自  
在

五目置之部

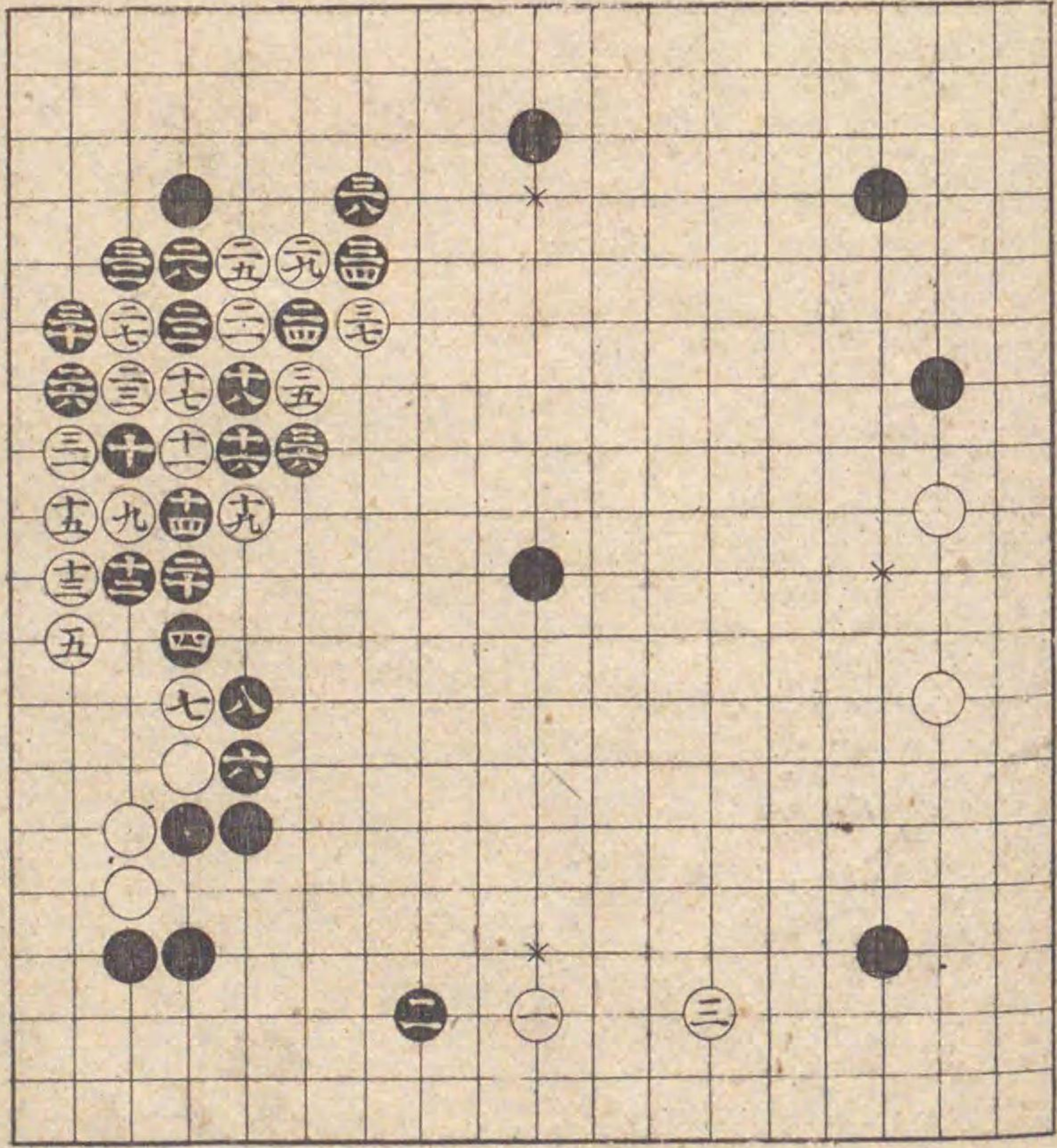
○四十二

方算  
書  
房

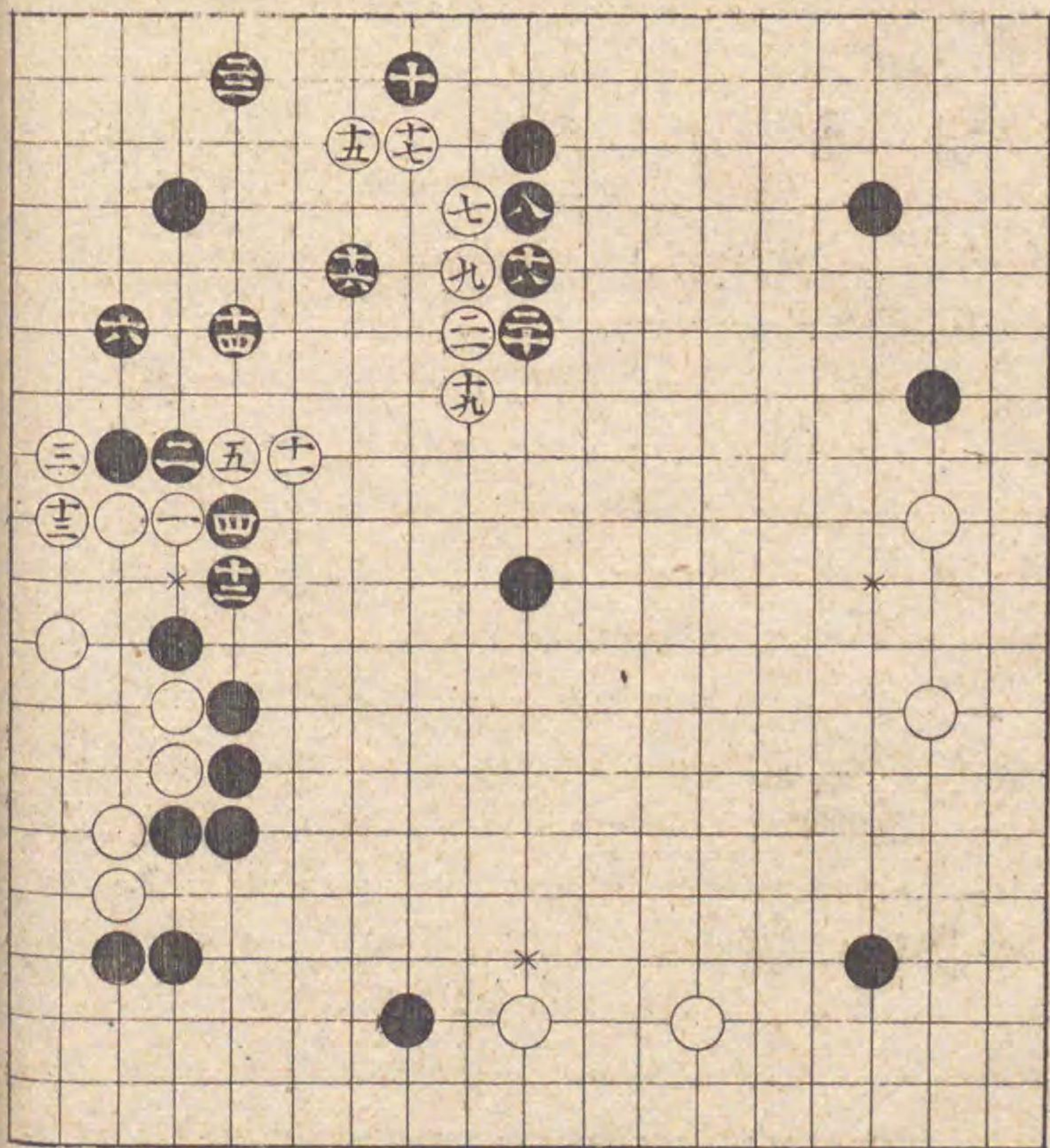
前番黒三十の手より  
替る  
如是強く打込打時ハ  
黒別て吉



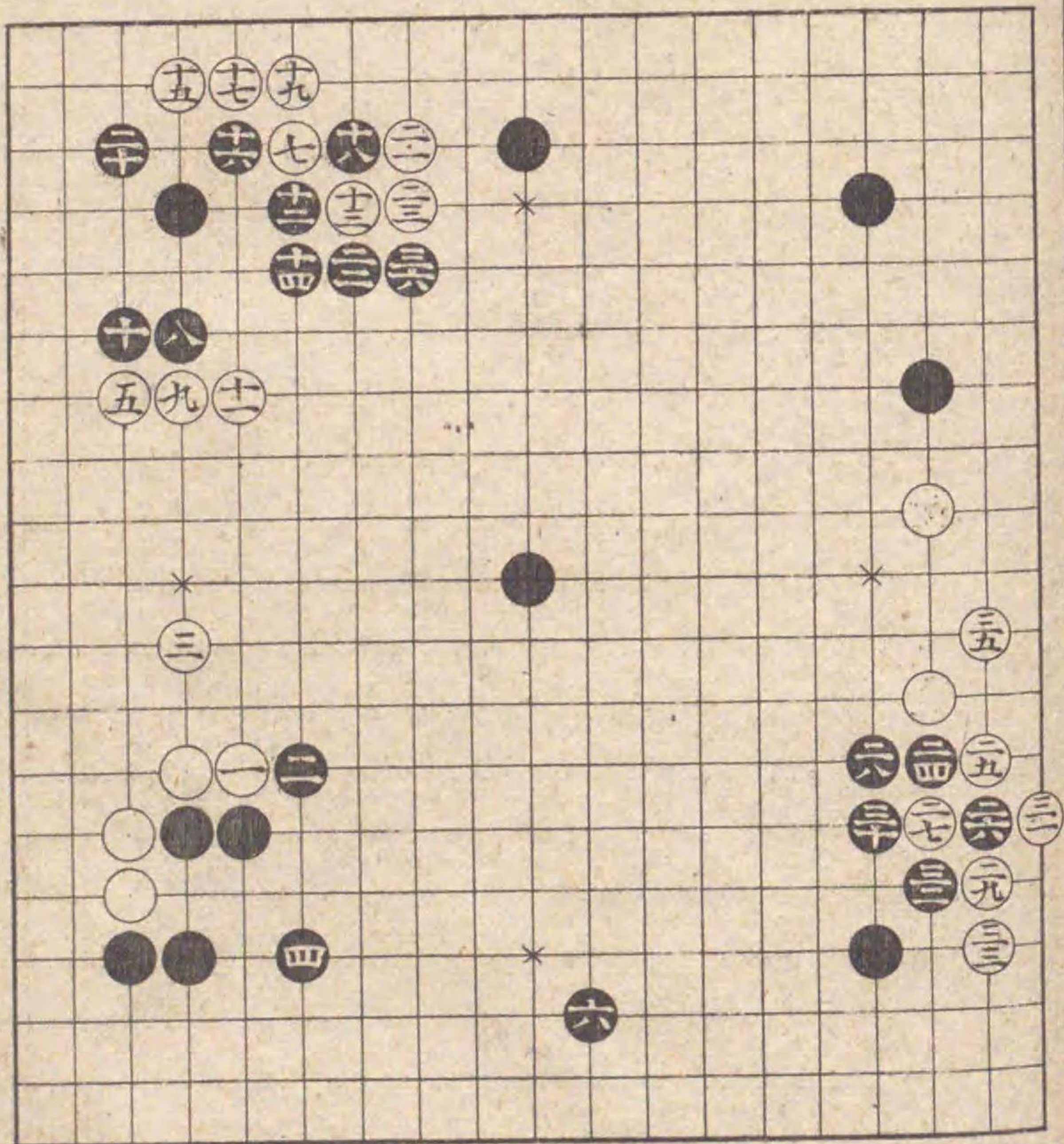
本番白十一の手より  
替る  
三四の手筋まれ亦有  
事之如斯かりてハ一  
筋小なりて黒打替  
り次小記成



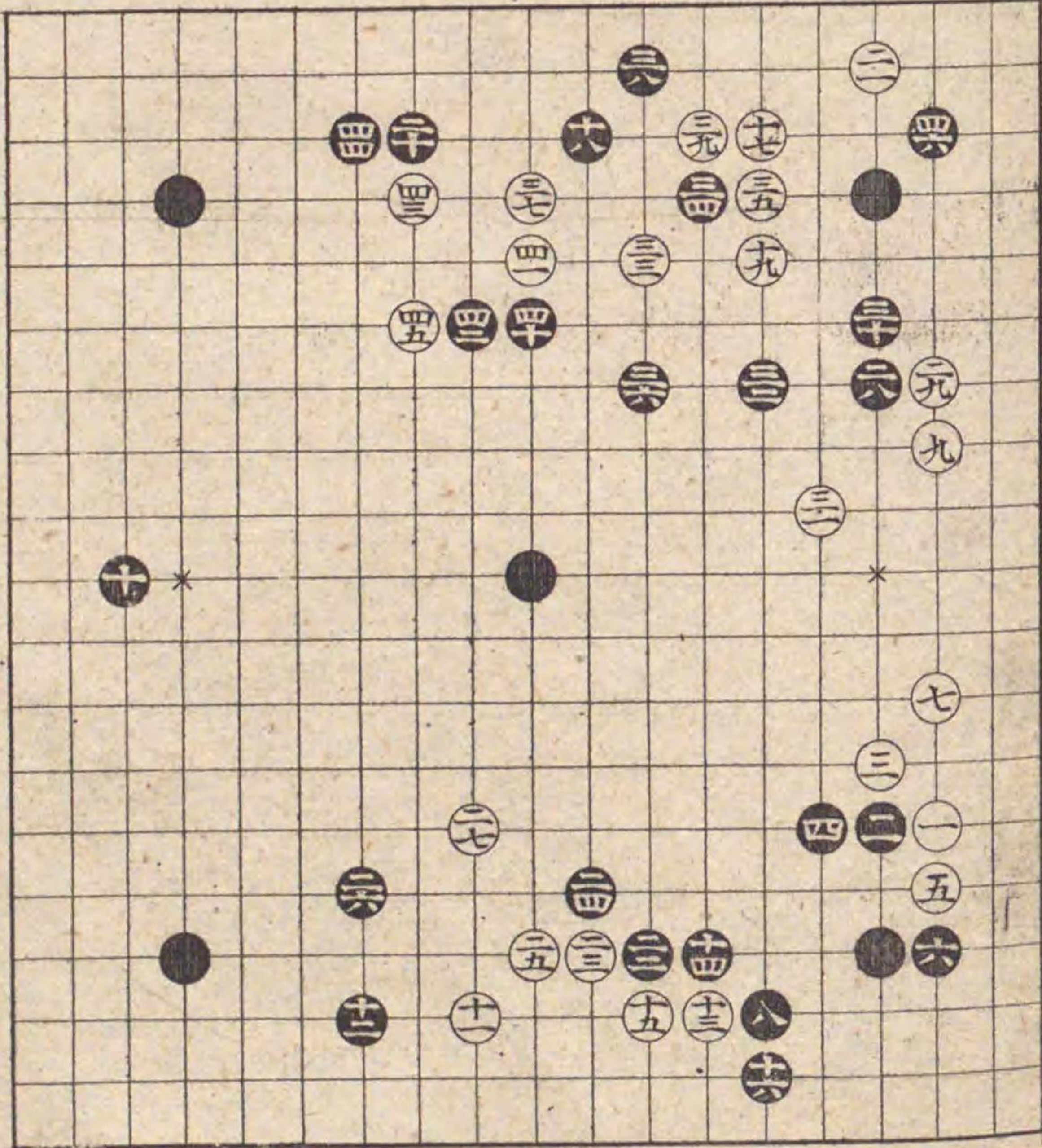
前番白十一の手より替る  
 黒六と飛よし越をねらひ如斯打之十六乃桂馬吉二二と軽く如此十の手を捨置き打至極よし



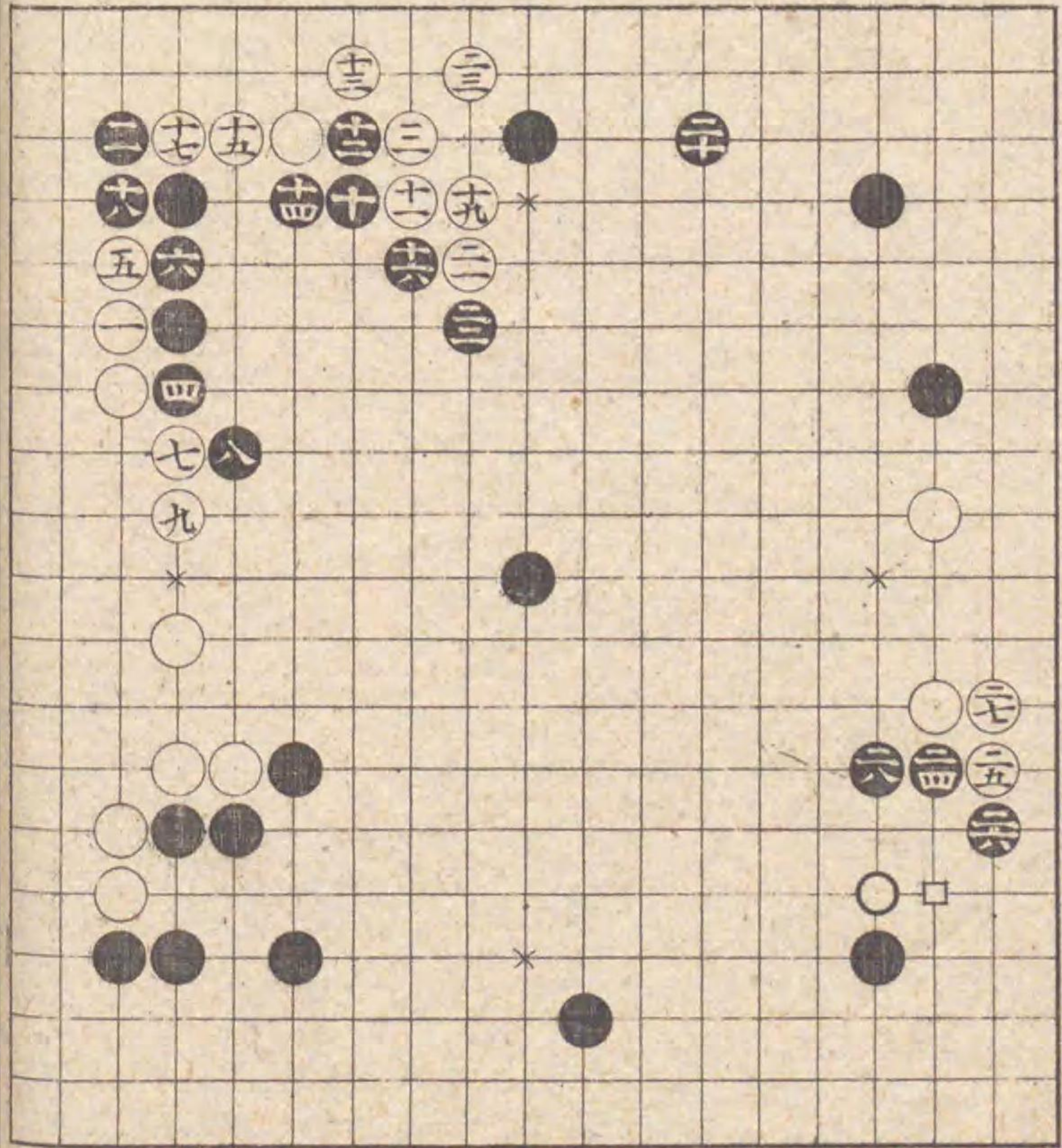
本番白十一の手より替る  
 如此替りても黒の位能打よし六の処大切の場之前小記置通り打込ふこ返り如是白打ハ堅く黒も打ち方劫とる



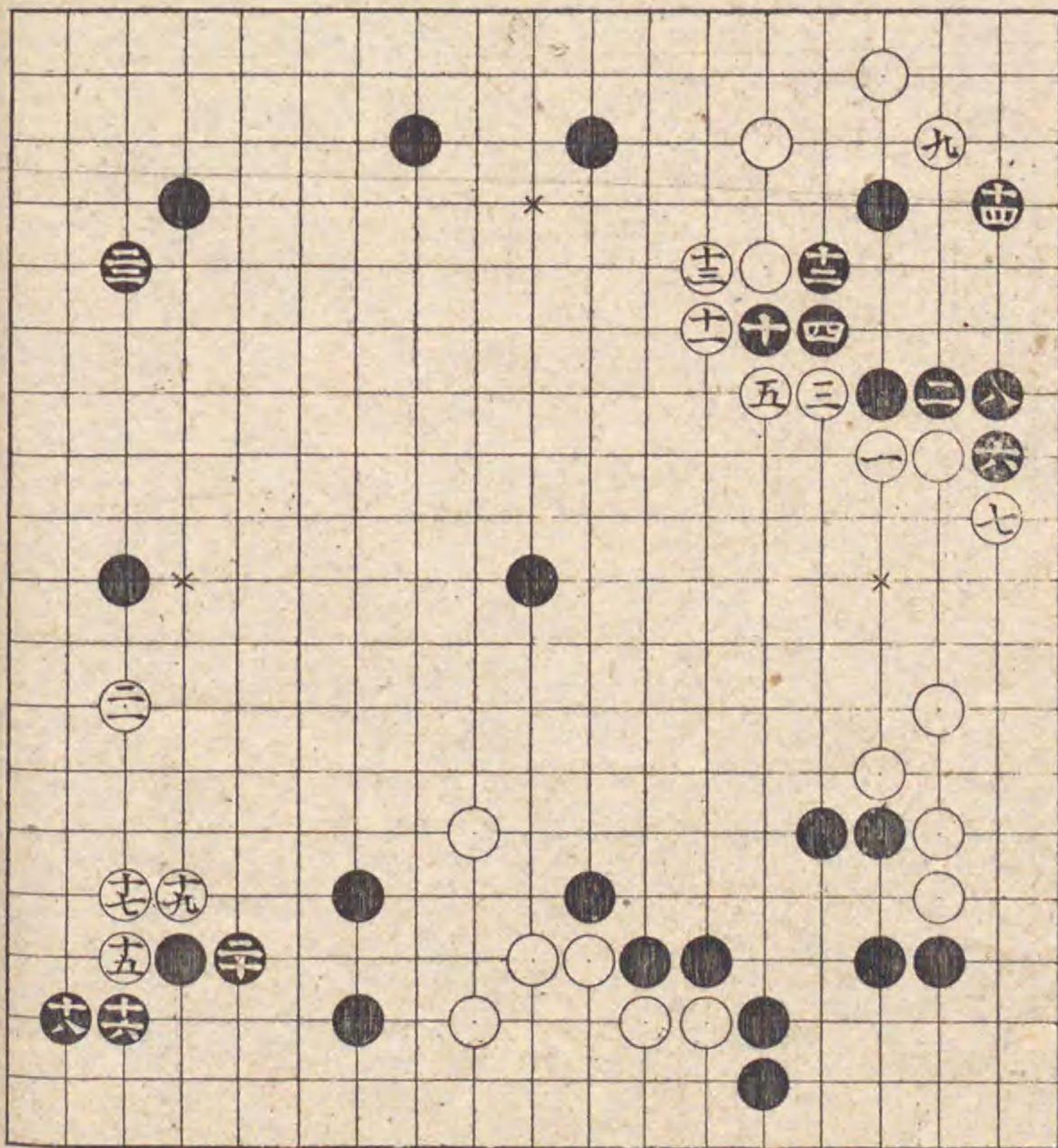
此石立も紛れかじ四  
六と如斯打見合て中  
を打吉白ハ拍子なく  
去て打ふくし故不如  
此打之替り次は記は



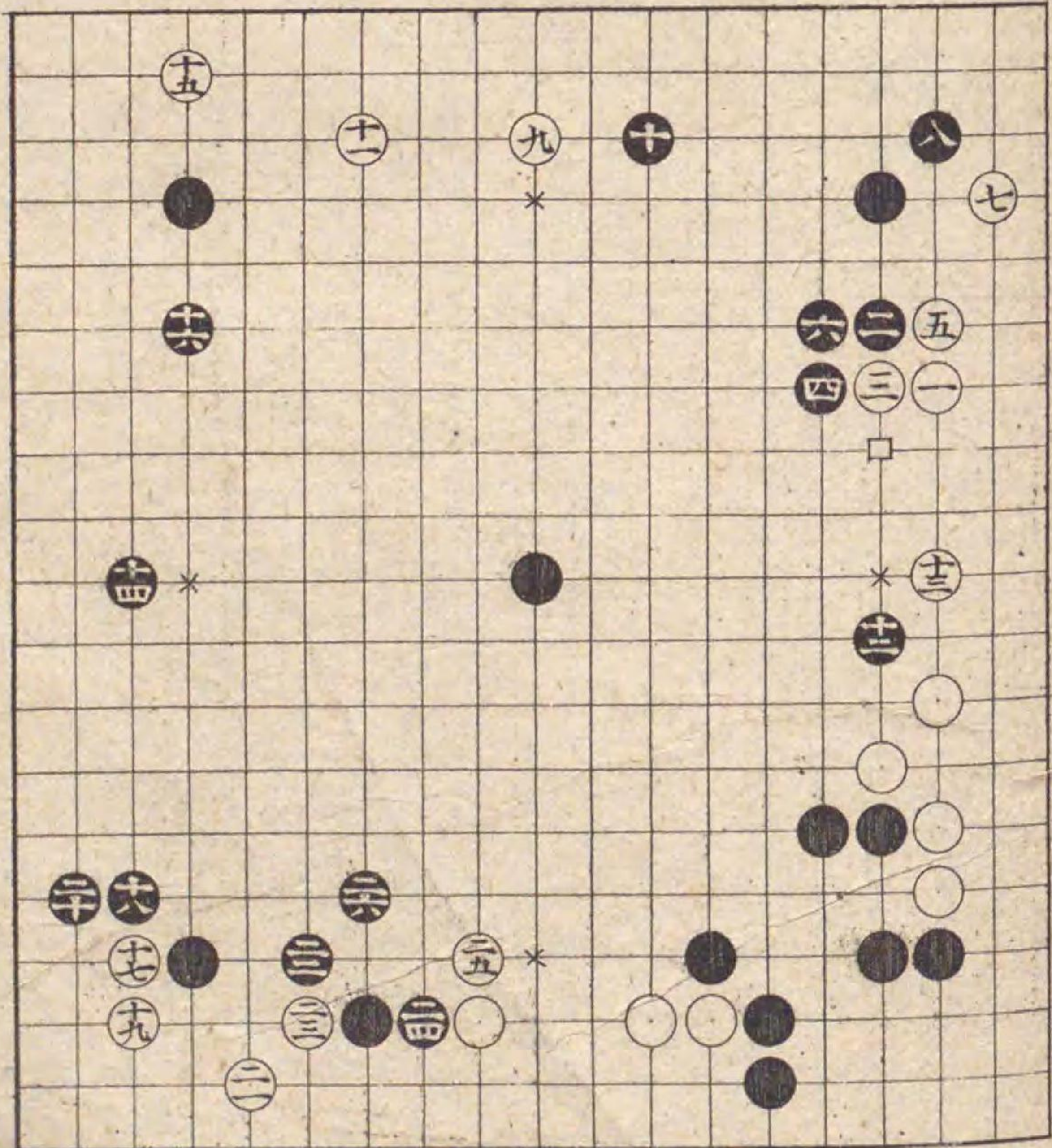
前番白九の手より替  
る  
此替り一向紛れかじ  
白より口印へのぞけ  
バ○印へ押へて打こ  
堅くちりて吉心得べ  
し



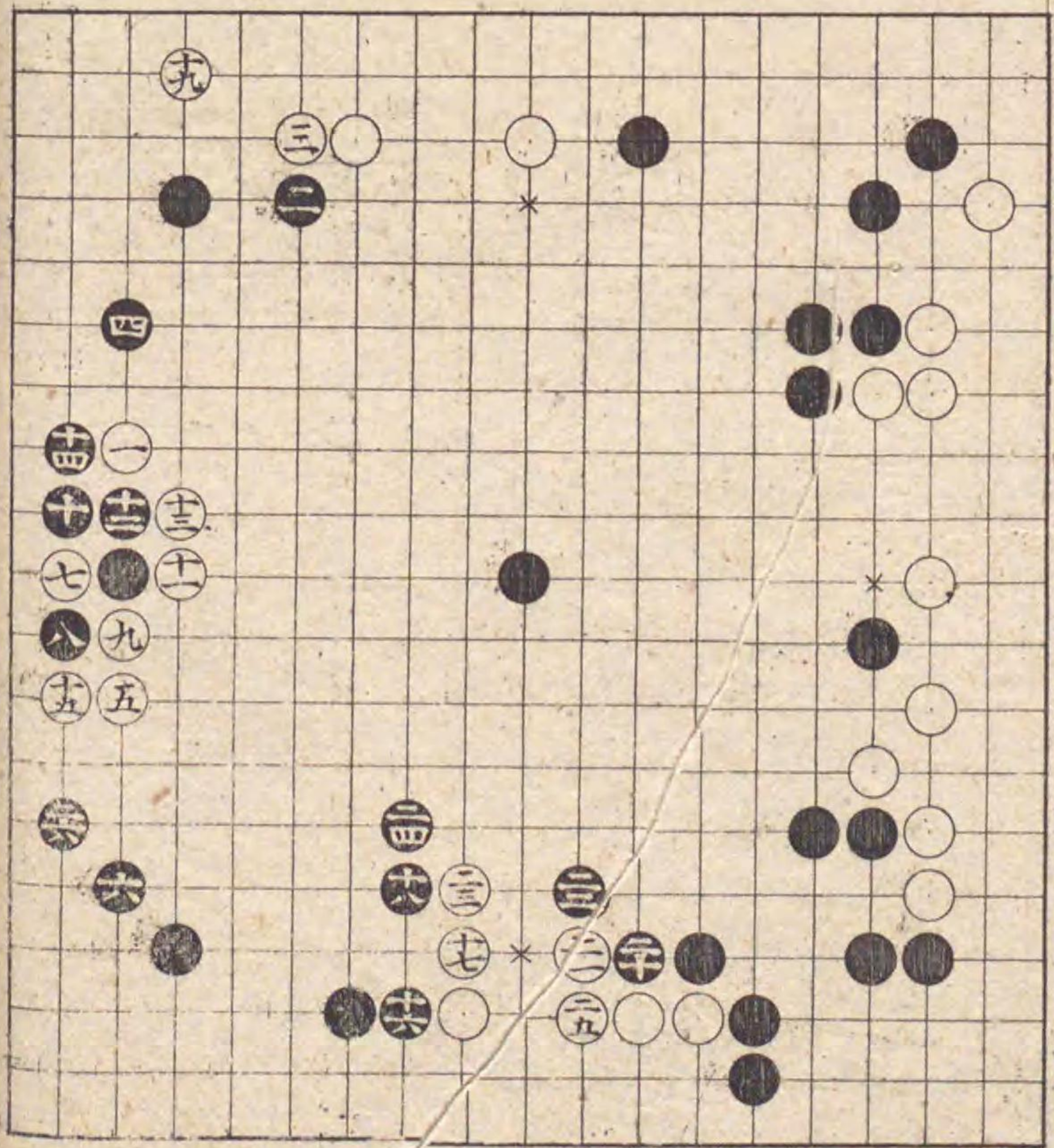
前番白二九の手より  
 りる  
 如是替りてハ猶々打  
 よし黒二の手あし  
 手の能手之尤手近き  
 碁ふてハ上をうたれ  
 あしき事有り置碁不  
 てハ外の位よき故別  
 て宜し



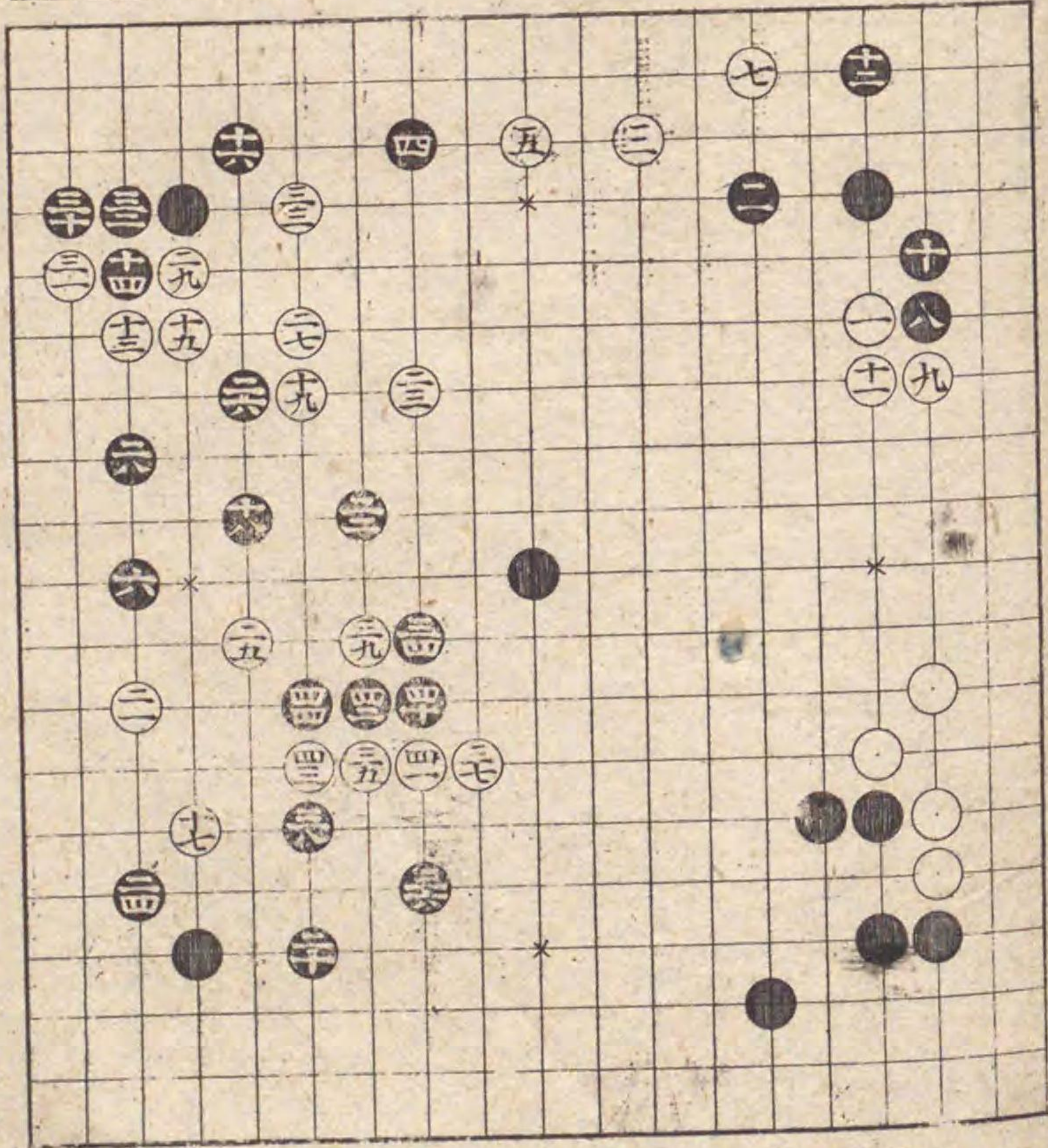
本番白九の手より替  
 る  
 黒十二の手口印は  
 ねて打もよし去十  
 二の手筋ハ可打事故  
 如斯記之白十七の時  
 此のごとく角ふて生  
 を打とき如是二四と  
 打ハ白大悪手とある  
 可心得



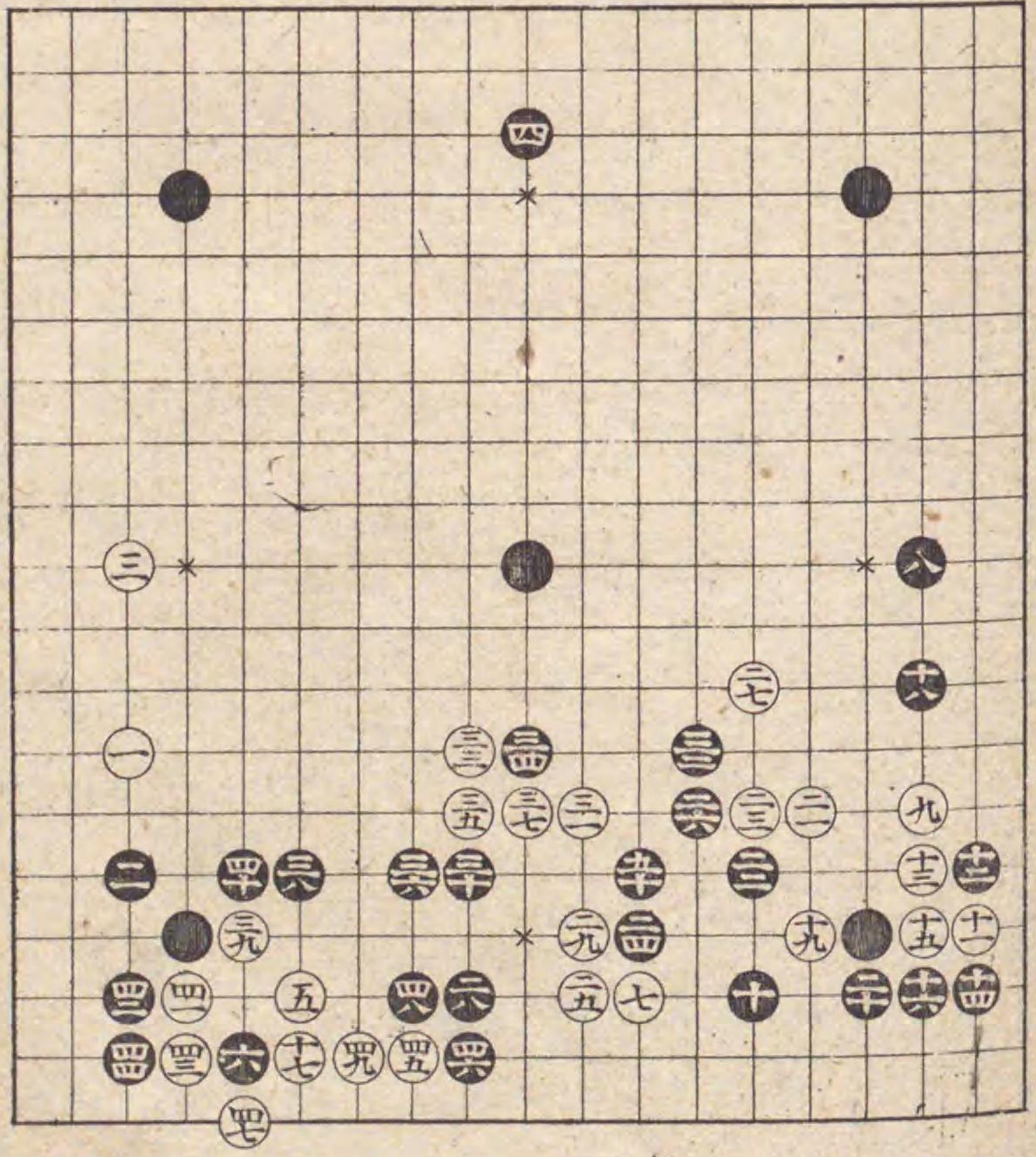
前番白十五の手より  
替る  
此替りも黒堅くふり  
て白打手談ふと替り  
次小記す



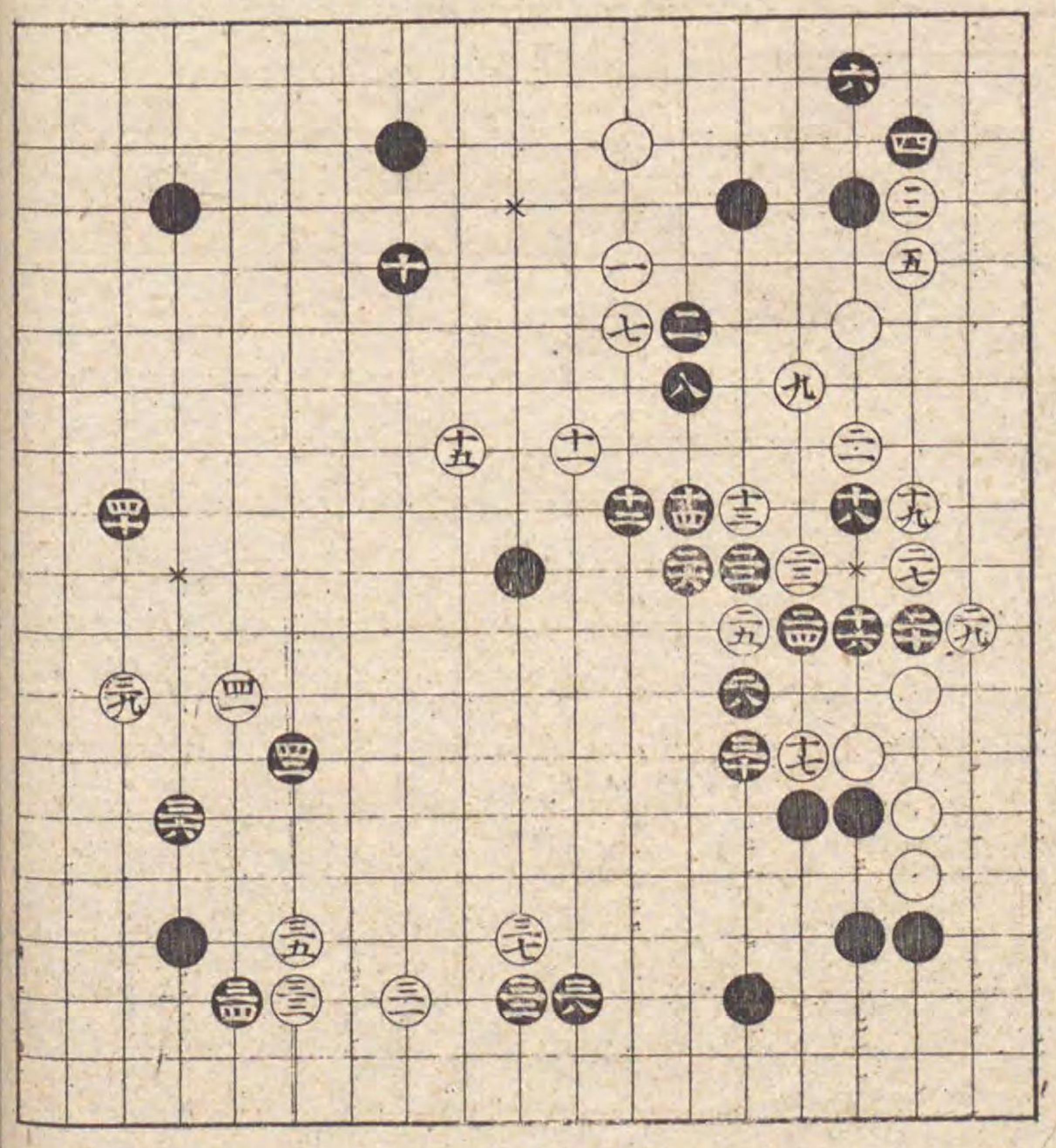
本番白九の手を替る  
此替りも吉白の三と  
五との石堅故黒も堅  
く十六と尖打かり如  
斯振合心得て不打ふ  
てハ紛れ間々あると  
こ心得て打よと次小  
記す



此石立打込此のよく  
手強く打ハ白大不悪  
し必勝之替り次不記

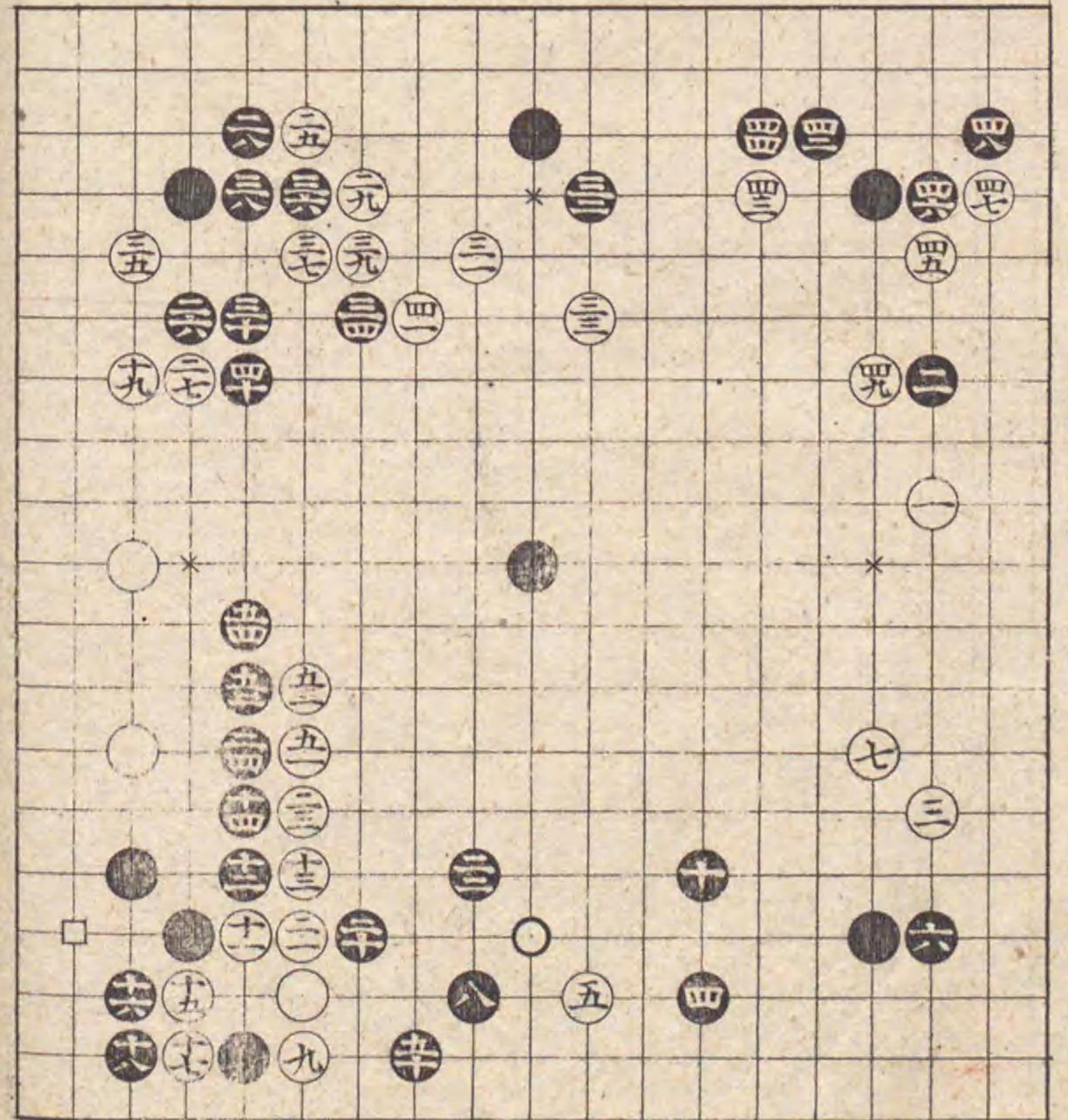


前番白五の手より替  
る  
如是替りても黒吉白  
三一の手三三の処へ  
先不打ときハ黒白の  
三一の処へ狭と打故  
此のよく白打之四二  
の手とし

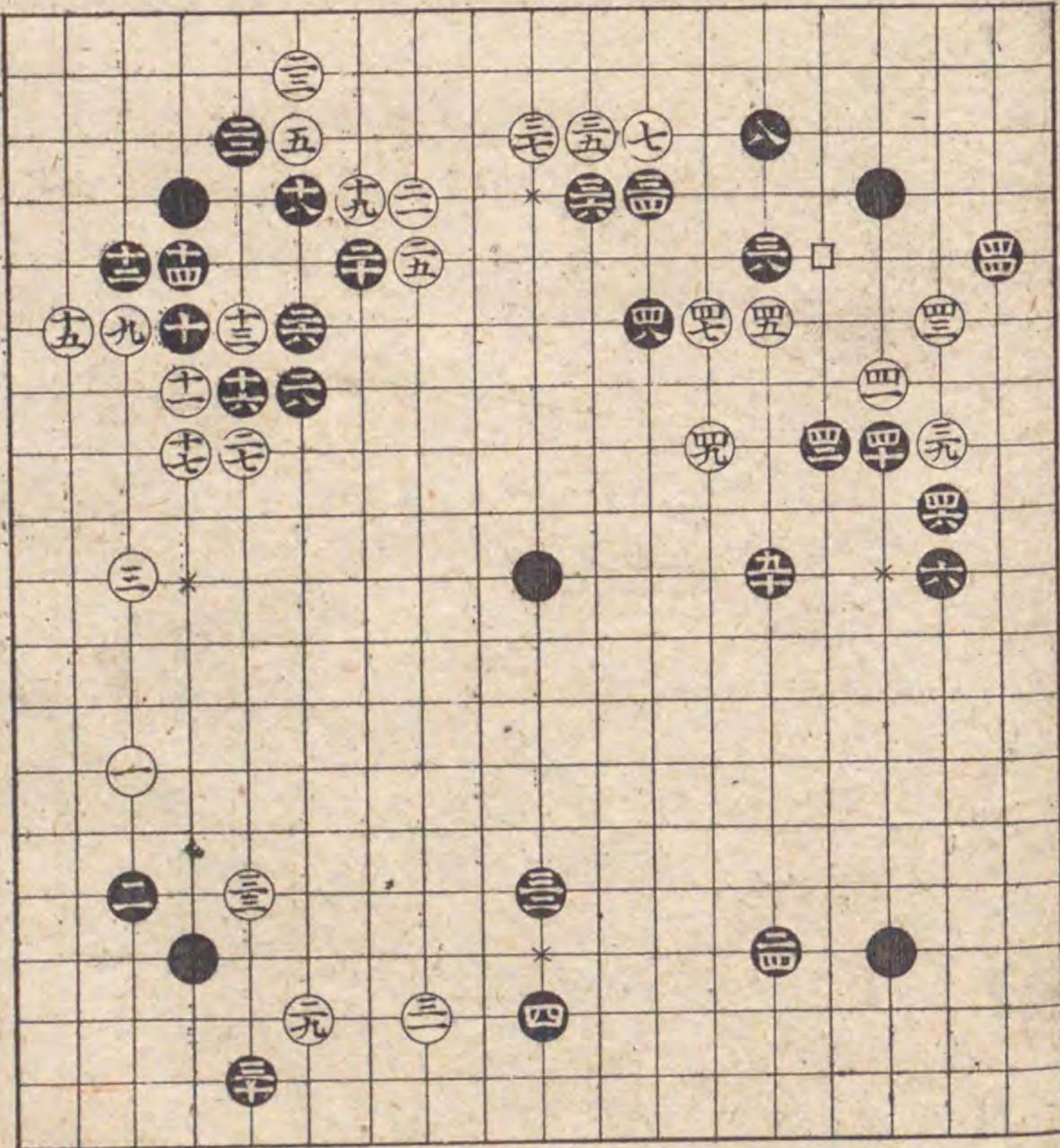




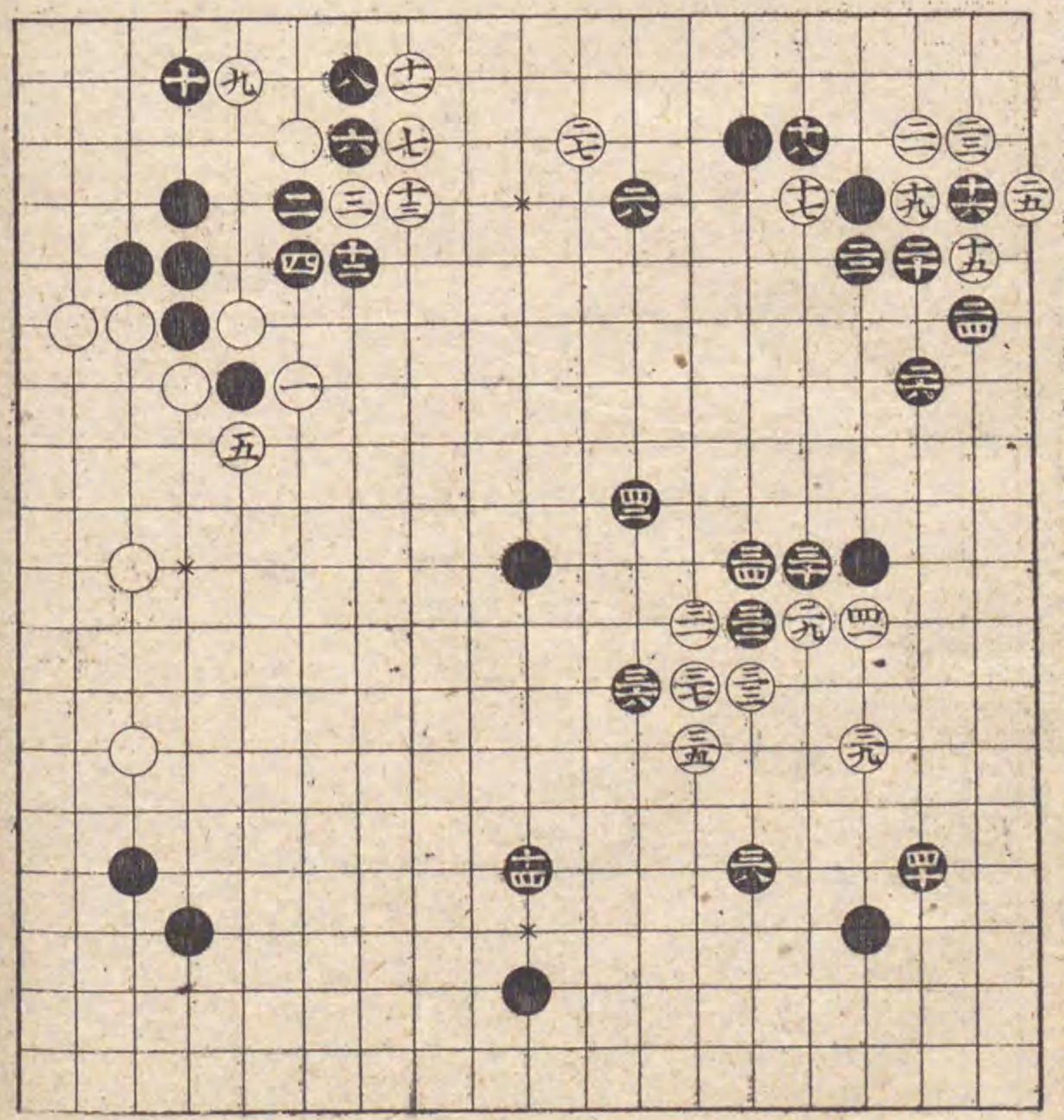
前番白七の手より替  
 る  
 此替り紛れあし白十  
 七の手小て口印への  
 そ打八十五の一目  
 を切白の五の石を○  
 印へこ流さかけ打か  
 り



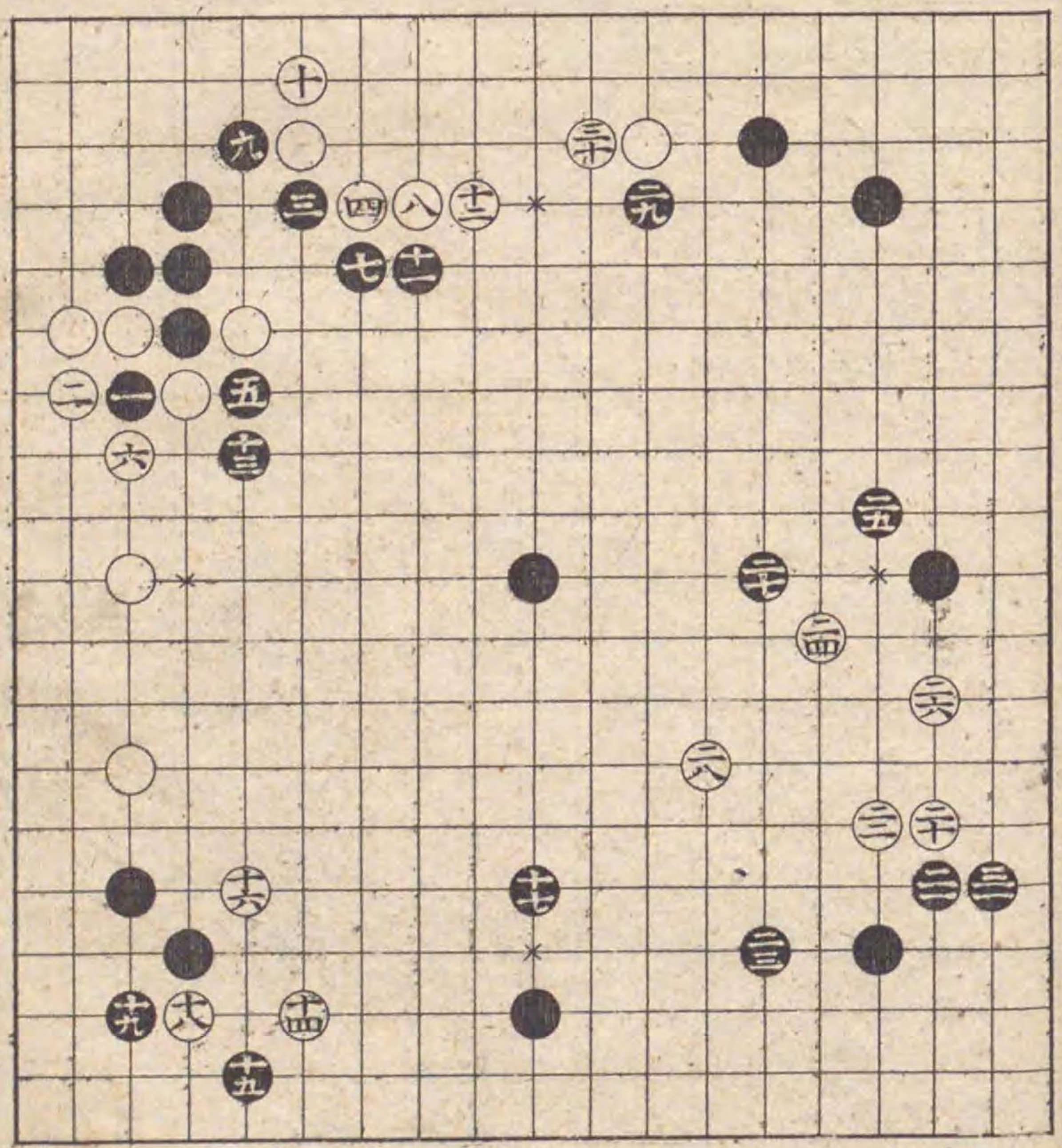
十六の切の時十七ぬ  
 るし次小記は白四七  
 の手小て口印へはね  
 て打八押て劫ふうけ  
 打こ四八と打も同じ  
 心持こ四六の場合番  
 毎にありゆり流べり  
 ぶは第一大場こ四十  
 弁て打も六の手筋堅  
 くちりてとこ



前番白十七の手より替る  
 黒堅故三十手を白の  
 三九へ打四一乃手へ  
 三一と白打とき三三  
 乃所へ桂馬不打大不  
 吉如此一とうたれ二  
 と舟て打ても面白り  
 らげ次不記乍去外位  
 能故紛れをし



本番黒十六乃手より替る  
 此石立紛れをし一と  
 切方軽くして吉二七  
 吉三十一此所不て至  
 極吉よハき手のつよ  
 き手之振替次不記す



本番白九の手より替  
 る  
 如是替りても少も紛  
 れるし二八吉ゆりす  
 とまは角ふ打込有て  
 悪し六一の所白石弱  
 きあへ六二と打て  
 打こ

